

東三河振興ビジョン
【主要プロジェクト推進プラン】
～ 「人が輝き活躍する東三河」の実現 ～

東三河ビジョン協議会
平成30年3月

目次

I	「主要プロジェクト推進プラン」の策定方針	1
1	テーマの設定	1
2	位置づけ	1
3	策定主体	1
4	計画期間	1
II	東三河の現状と課題	2
1	東三河地域の人の流れの特徴	2
2	女性を取り巻く現状	8
3	若者を取り巻く現状	11
4	高齢者を取り巻く現状	17
III	取組体系及び目標	22
1	取組体系（2つの方針と4つの主な取組）	22
2	目標	22
IV	主な取組内容	24
1	誰もが能力を最大限に発揮できる環境づくりの推進	24
	（1）女性が働きやすい環境づくり	24
	（2）高齢者の活躍	29
2	人材の育成・確保	31
	（1）小学生・中学生・高校生・大学生を対象とする地域教育、キャリア教育の推進	31
	（2）UIJターン等の推進	34
V	推進体制等について	36
1	推進体制	36
2	推進プランの進捗状況の把握及び見直しについて	36
VI	平成29年度先導事業	37
1	東三河魅力発信事業（愛知県事業）	37
2	奥三河魅力発見プログラム（愛知県事業）	37
3	小中高特連携事業（愛知県事業）	38
4	学生と企業の担当者が気軽に対話できるカフェ形式の交流会開催(東三河広域連合等)	39
VII	参考資料	40

I 「主要プロジェクト推進プラン」の策定方針

1 テーマの設定

「主要プロジェクト推進プラン」(以下「推進プラン」という。)は、「将来ビジョン」に位置づけた重点的な施策を具体化し、着実に推進していくために策定するもので、平成 29 年度は、「将来ビジョン」に掲げた 7 つの重点的な施策の方向性の中から、戦略的に取り組むべきテーマとして『人が輝き活躍する東三河』の実現」と「世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携」を設定した。

本冊は、このうち『人が輝き活躍する東三河』の実現』についてとりまとめたものである。

2 位置づけ

県、市町村、東三河広域連合、経済関係団体、観光関係団体、大学、民間事業者、NPO等が、共通目標のもと連携・協働して展開する実施計画

3 策定主体

東三河ビジョン協議会

(県、東三河の 8 市町村、東三河広域連合、経済関係団体、大学等で構成)

4 計画期間

平成 30 年度から平成 32 年度までの 3 年間

Ⅱ 東三河の現状と課題

1 東三河地域の人の流れの特徴

(1) 性年齢別純移動数*の推移

- 東三河における 2013 年から 2016 年における純移動数（男女計）の推移を見ると、**転出超過が拡大傾向**にある。
- 男性は、転出超過数が**一貫して大幅に増大**している。女性は、転出超過数が**高止まり**している。
- 男女とも、県外よりも**県内他地域への転出**の方が多い。
- 年齢別では、男女とも**20 代の転出超過**の傾向が最も顕著であり、特に**女性は年ごとのバラツキがほとんどない**。

* 純移動数＝転入者数－転出者数

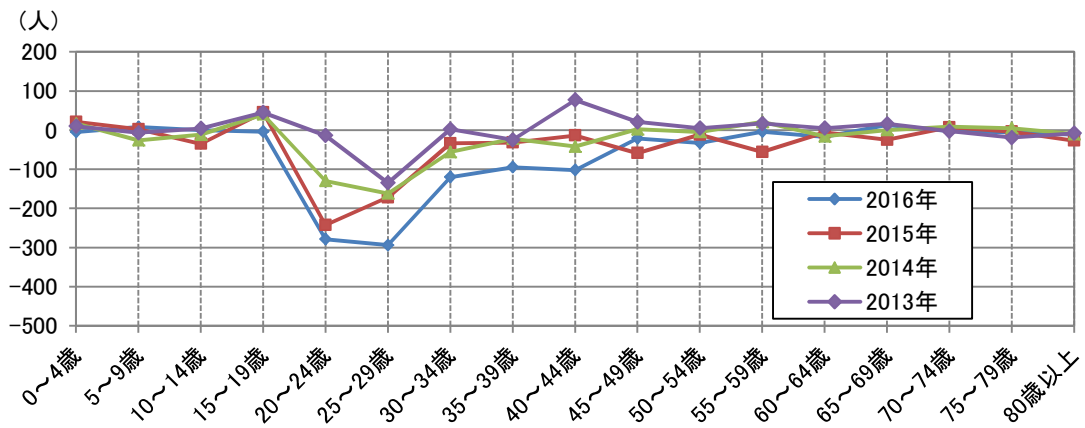
<表 1> 男女別純移動数

(単位:人)

	2013 年			2014 年			2015 年			2016 年		
	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計
計	△809	△5	△814	△840	△364	△1,204	△1,298	△264	△1,562	△1,129	△595	△1,724
男性	△255	246	△9	△307	△80	△387	△665	21	△644	△652	△322	△974
女性	△554	△251	△805	△533	△284	△817	△633	△285	△918	△477	△273	△750

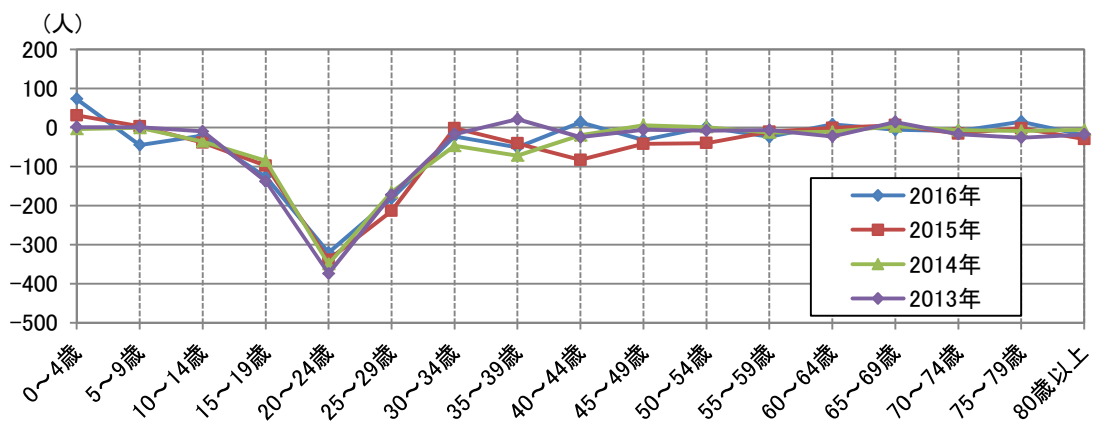
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

<図 1> 年齢 5 歳階級別純移動数（男性）



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

<図 2> 年齢 5 歳階級別純移動数（女性）

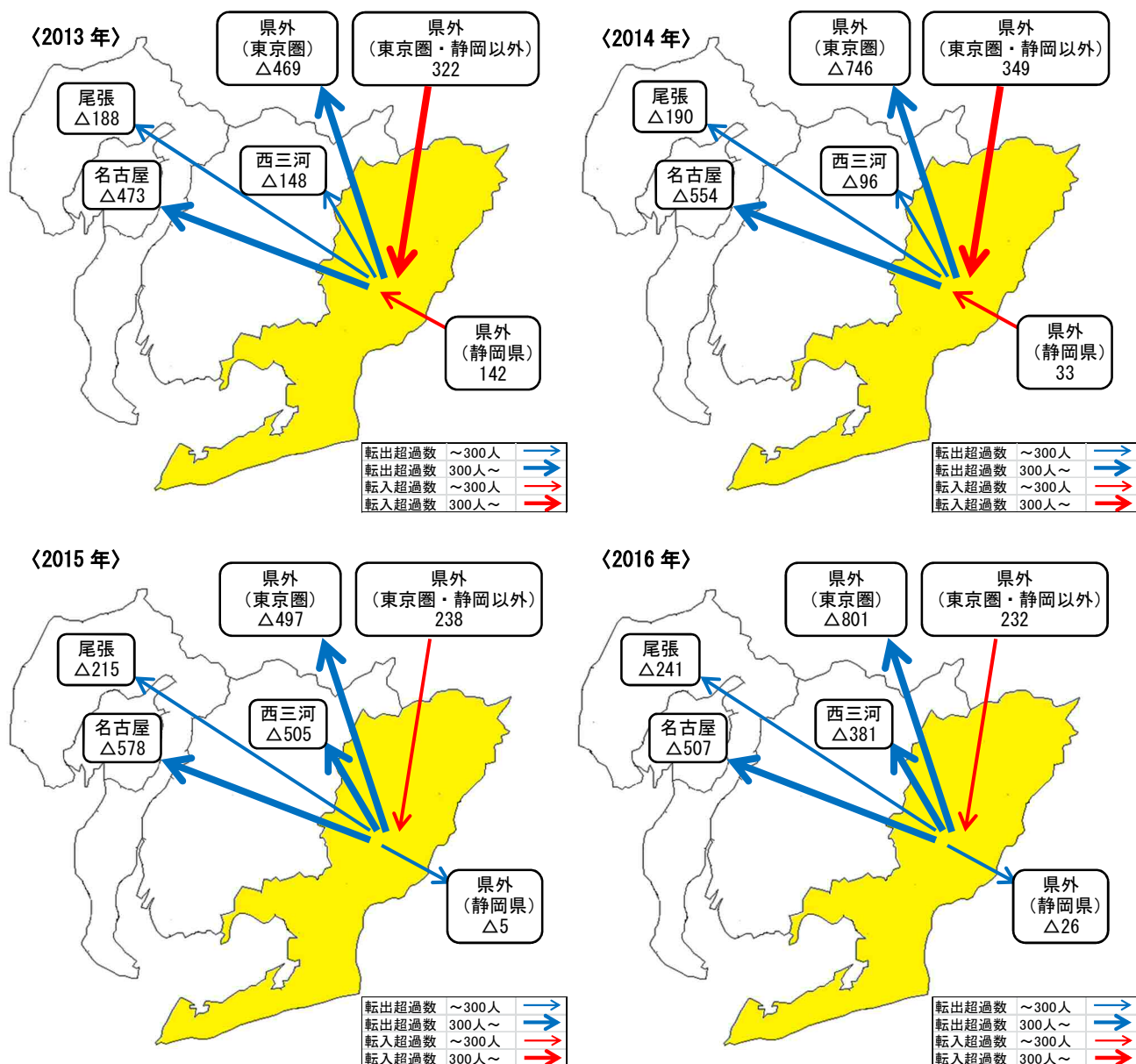


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(2) 地域別純移動数の推移

- 県外では、年ごとに波はあるものの、**東京圏に対する大幅な転出超過が継続**しており、静岡県に対しては小幅ながらも転出超過傾向が強まっている。その他地域に対しては、転入超過が継続しているが、**転入超過は縮小傾向**にある。
- 県内では、一貫して**名古屋に対する大幅な転出超過**が続いており、**尾張及び西三河**に対しても**転出超過が拡大**する傾向にある。特に、西三河に対する転出超過の拡大傾向が強い。

<図3> 地域別純移動数 (2013年～2016年)



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」
(単位：人)

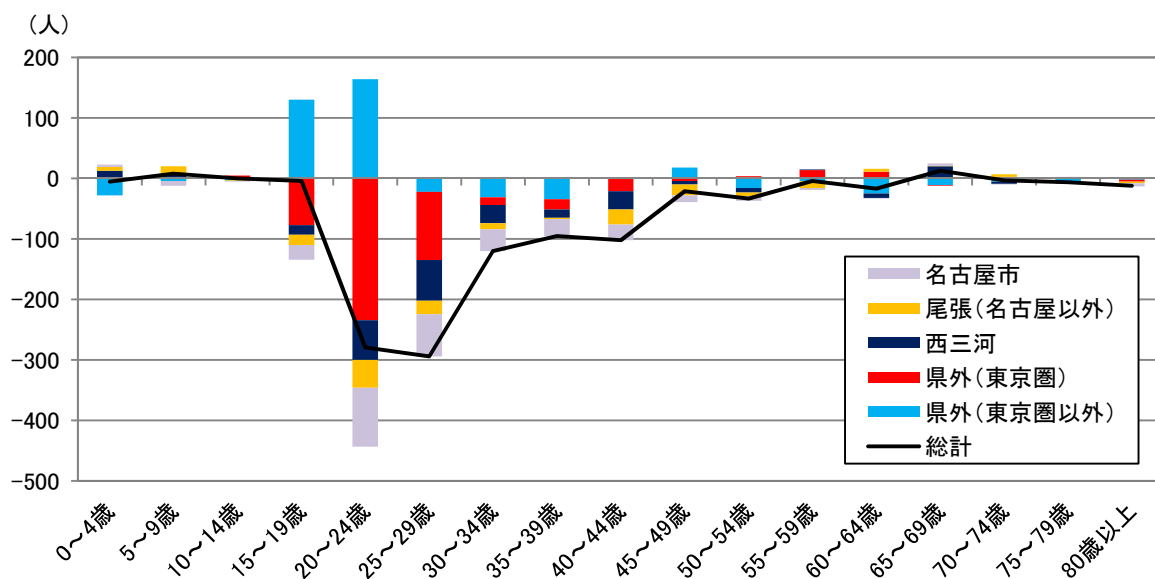
<表2> 地域別純移動数

	県外			県内		
	東京圏	静岡県	東京圏・静岡以外	名古屋	尾張	西三河
2013年	△469	142	322	△473	△188	△148
2014年	△746	33	349	△554	△190	△96
2015年	△497	△5	238	△578	△215	△505
2016年	△801	△26	232	△507	△241	△381

(3) 性年齢別・地域別純移動数 (2016年)

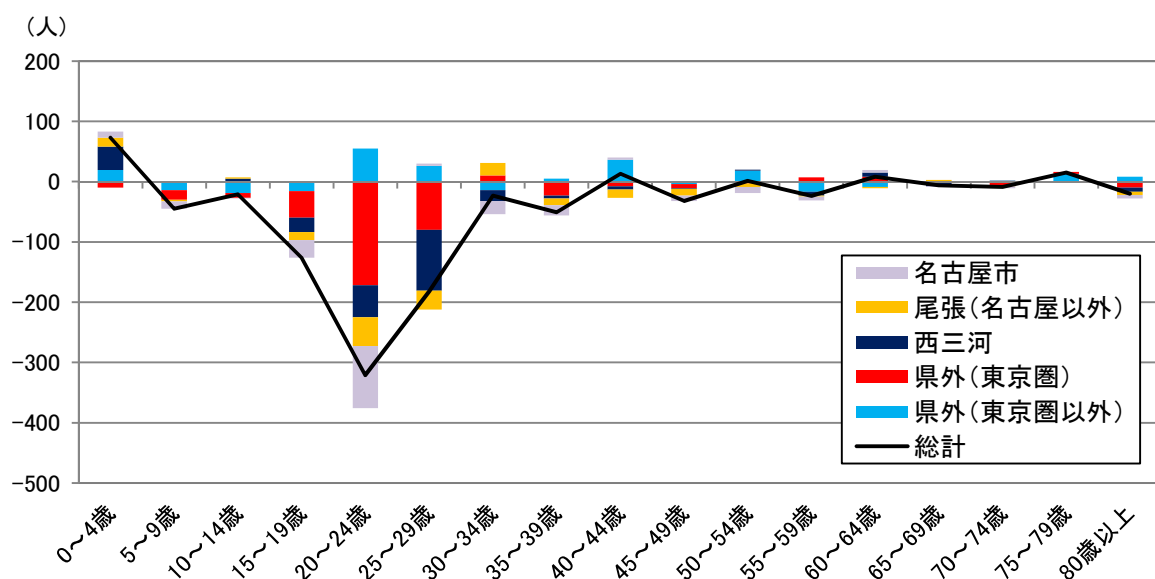
- 男性の15歳から24歳の階層では、東京圏を除く県外からは転入超過となっており、15歳から19歳の階層では、転出入が拮抗している。20歳から29歳の階層では、東京圏への転出が最も多い。
- 女性の15歳から24歳の階層では、東京圏と名古屋への転出が多いが、25歳から29歳の階層では、西三河への転出が増加する傾向が見られる。2013年から2015年についても、同様の傾向が見られる。

<図4> 地域別純移動数 (2016年 (男性))



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

<図5> 地域別純移動数 (2016年 (女性))

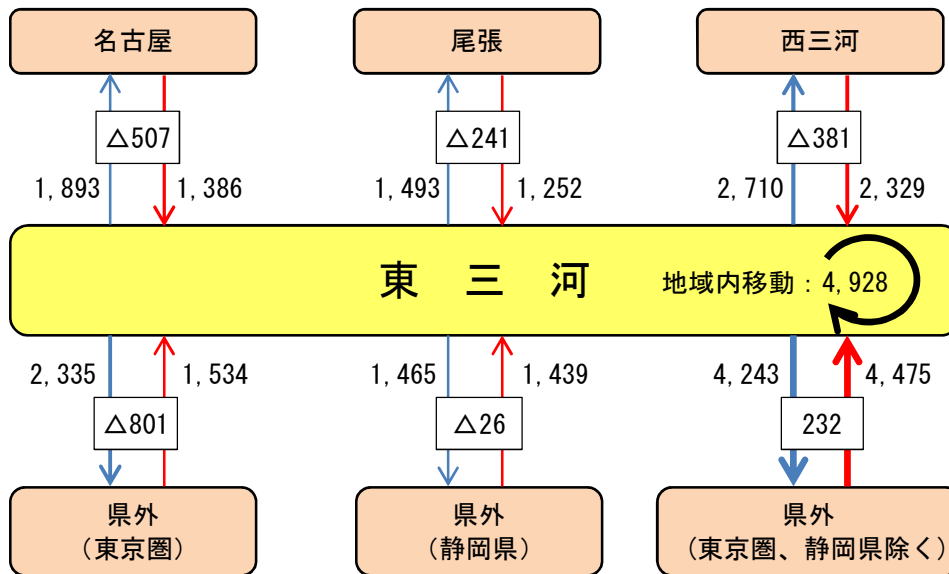


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

【参考】地域別移動数（2016年）

（単位：人）

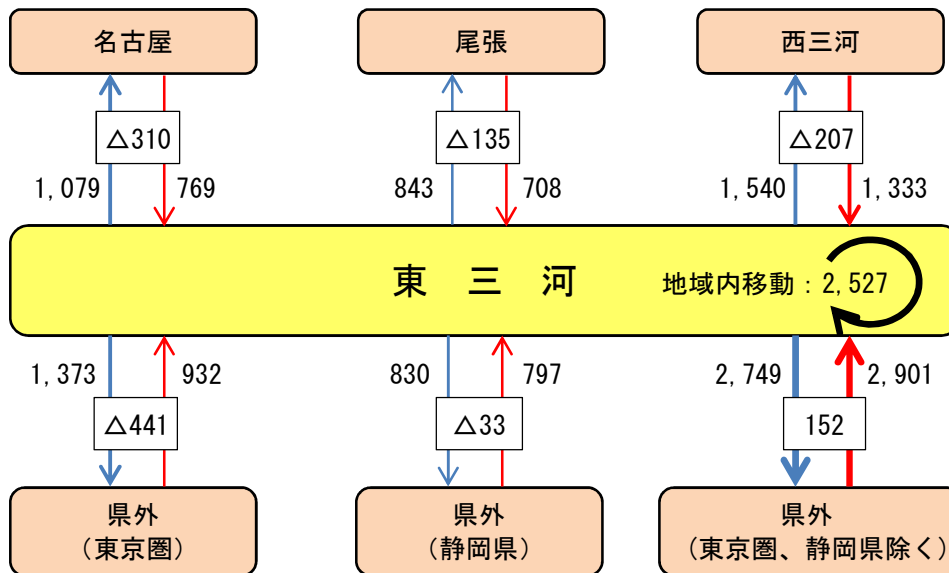
総数



転入者計：
12,415 人(1.6%)
転出者計：
14,139 人(1.9%)
転出入者計：
△1,724 人(0.2%)

※()は、東三河の人口に占める割合

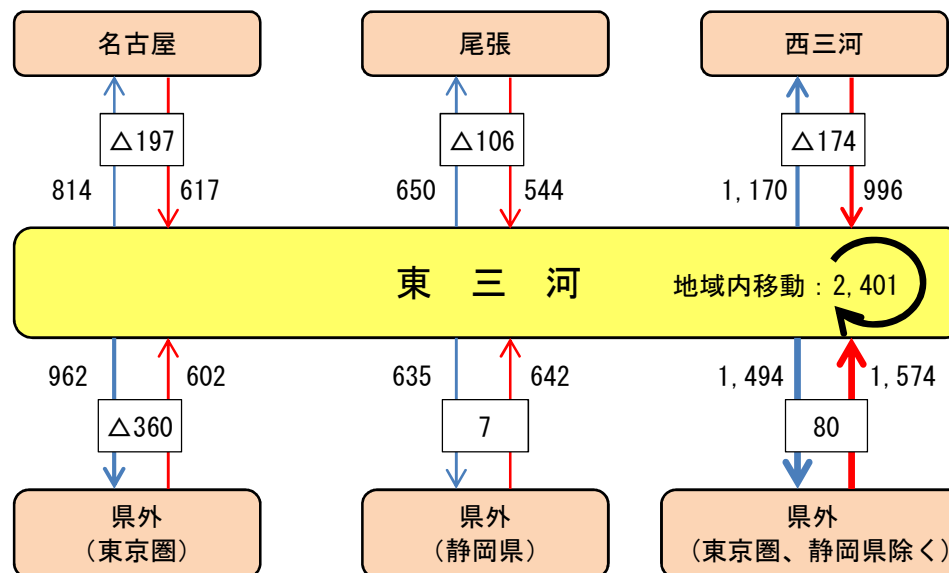
男性



転入者計：
7,440 人(2.0%)
転出者計：
8,414 人(2.2%)
転出入者計：
△974 人(0.3%)

※()は、東三河の男性の人口に占める割合

女性



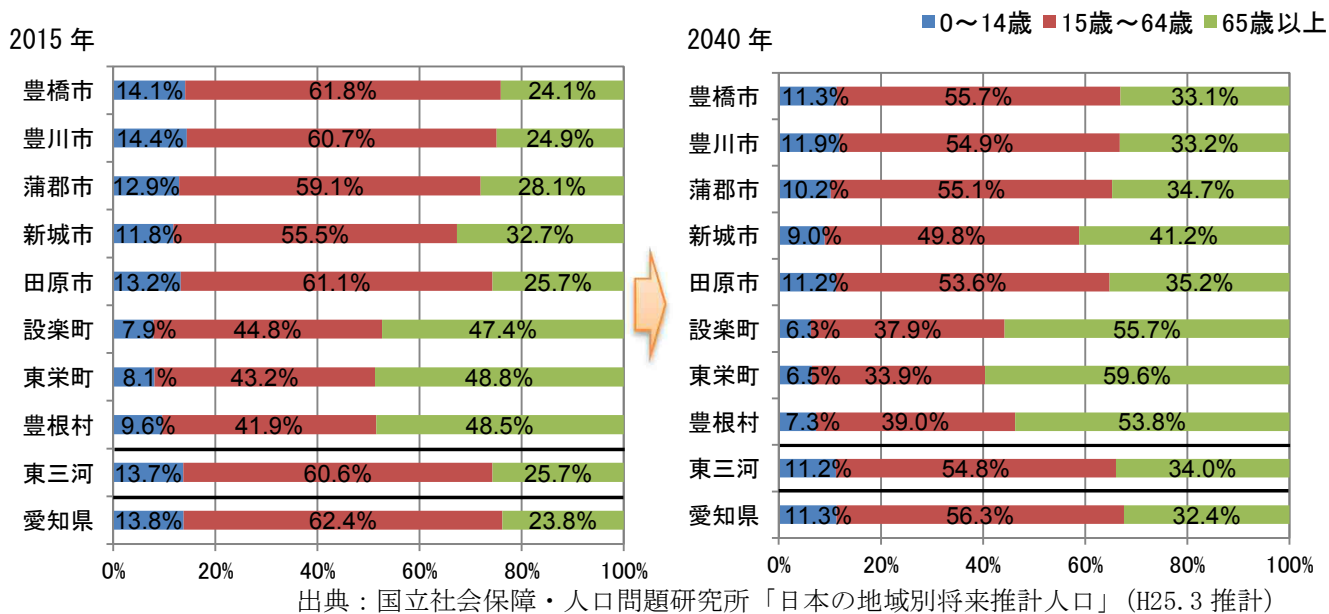
転入者計：
4,975 人(1.3%)
転出者計：
5,725 人(1.5%)
転出入者計：
△750 人(0.2%)

※()は、東三河の女性の人口に占める割合

(4) 年齢別人口割合の推移

- 2015年現在、東三河の全ての市町村において、**高齢化率は県平均を上回っている**。
- 特に**山間部**では、**県内他地域に先行**して高齢化が進んでいる。
- **2015年と2040年の年齢別人口割合（推計）を比較すると、東三河全体の高齢化率は8.3%上昇する**。

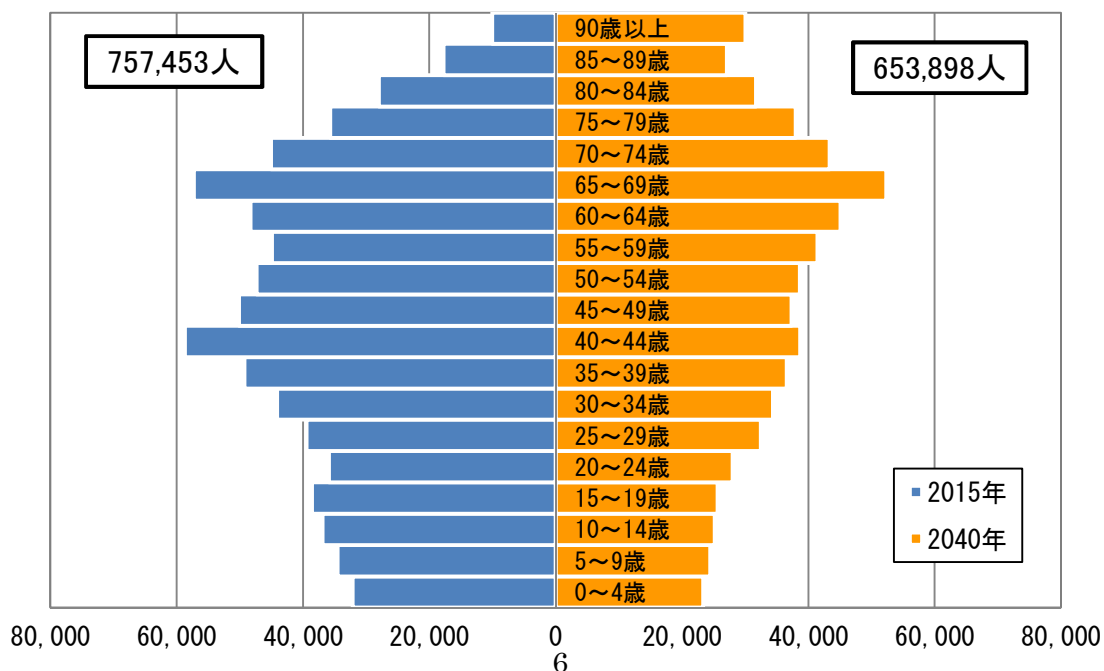
<図6> 東三河8市町村別 年齢3区分別人口割合



(5) 東三河の人口ピラミッド (2015年、2040年)

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年の東三河の人口は、**2015年から約16%減少**する。
- 2015年は、団塊の世代（65～69歳）と団塊ジュニアの世代（40～44歳）の人口が多く、若い世代が少ない。
- **2040年には、人口の多い年齢層が高齢層へシフトしており、65歳～69歳の階層が最も人口が多くなる**。

<図7> 東三河の人口ピラミッド



(5) まとめ

以上のデータから、**東三河における人の流れの特徴**を整理すると、以下の5項目となる。

- ① 転出超過が拡大傾向にある。
- ② 20代の若者の転出超過が顕著であり、特に20歳～24歳女性の転出超過が常態化している。
- ③ 東京圏、名古屋、西三河の順で転出超過が多い。
- ④ 女性の県内の転出先については、20代前半は名古屋、20代後半は西三河が最も多い。
- ⑤ 県内他地域に先行して高齢化が進行しており、今後もこの状況が続く。

これらの現状を踏まえ、若者、女性及び高齢者の人材育成・確保に焦点を当てた取組を推進することとし、**女性、若者、高齢者それぞれを取り巻く現状をさらに分析**する。

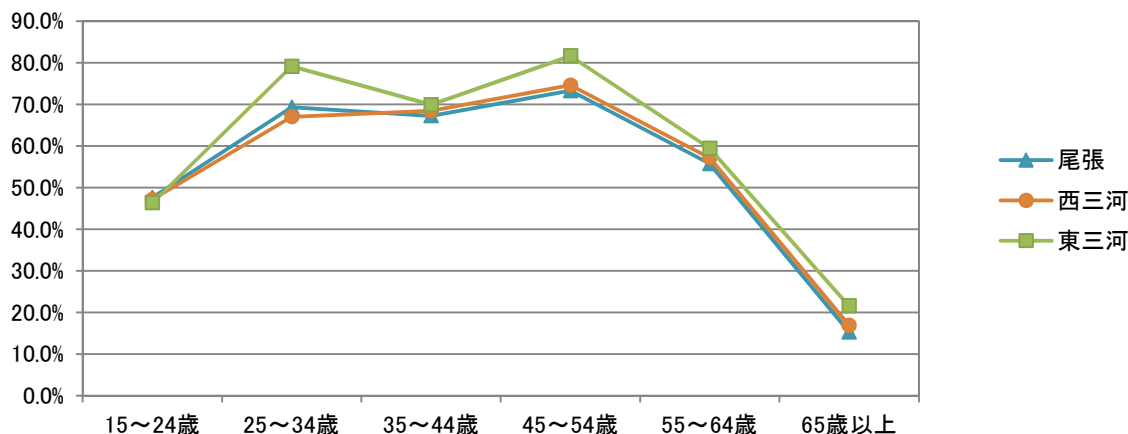
2 女性を取り巻く現状

(1) 女性の就業状況

- 東三河における年齢10歳階級別女性の有業者率をみると、**35歳～44歳を谷とする明確なM字曲線**を描いている。また、県内他地域と比較して、25歳～34歳、45歳～54歳で有業者率が高くなっている。
- M字曲線の谷となる**35歳～44歳**の年齢層では、**無業者の内、6割程度は就業を希望[※]**している。

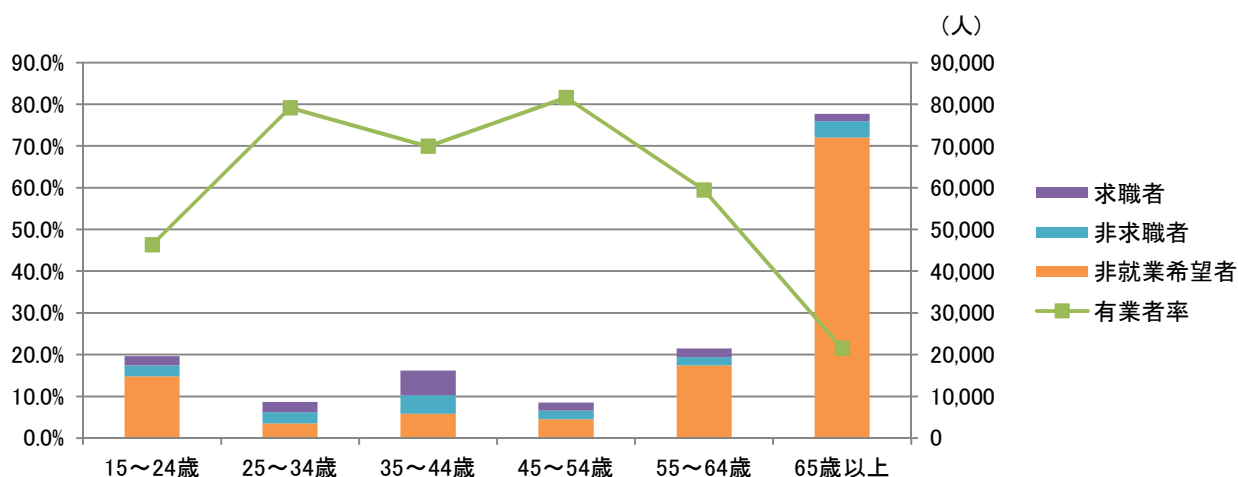
※ 就業希望者数=求職者+非求職者

<図8> 年齢10歳階級別女性の有業者率（地域別）



出典：総務省「平成24年就業構造基本調査」

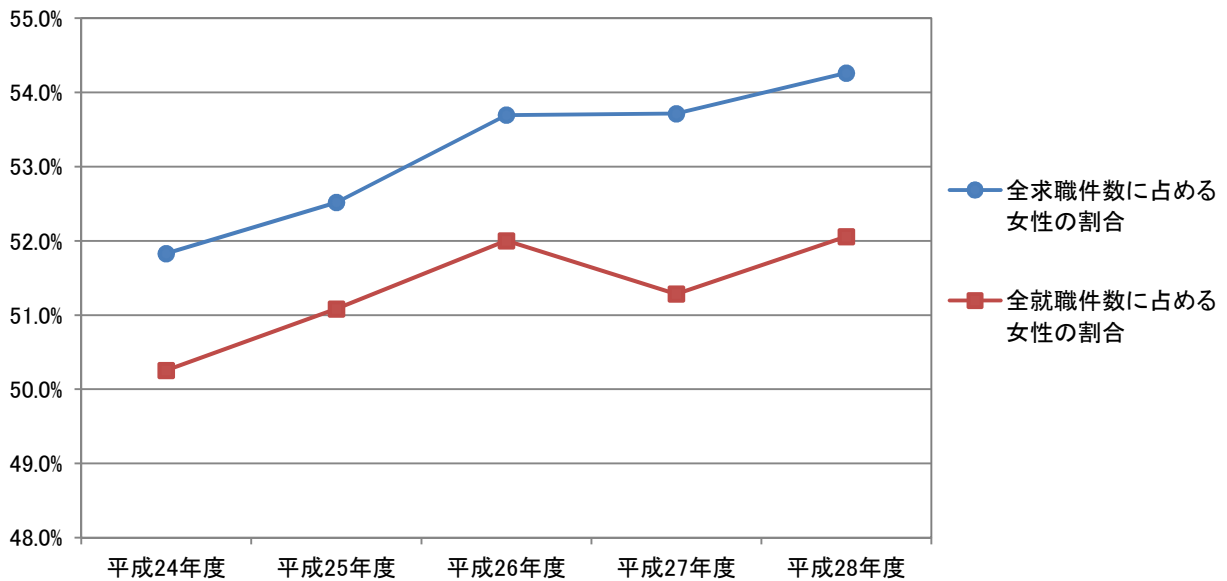
<図9> 年齢10歳階級別女性の有業者率と事由別無業者数（東三河地域）



出典：総務省「平成24年就業構造基本調査」

- 東三河地域を所管する職業安定所（豊橋、豊川、新城）が実施している一般職業紹介業務において、**求職件数、就職件数に占める女性の割合は、年々増加している。**

＜図 1 0＞東三河のハローワークにおける求職件数、就職件数に占める女性の割合の推移



※愛知労働局「愛知労働局年報」より作成

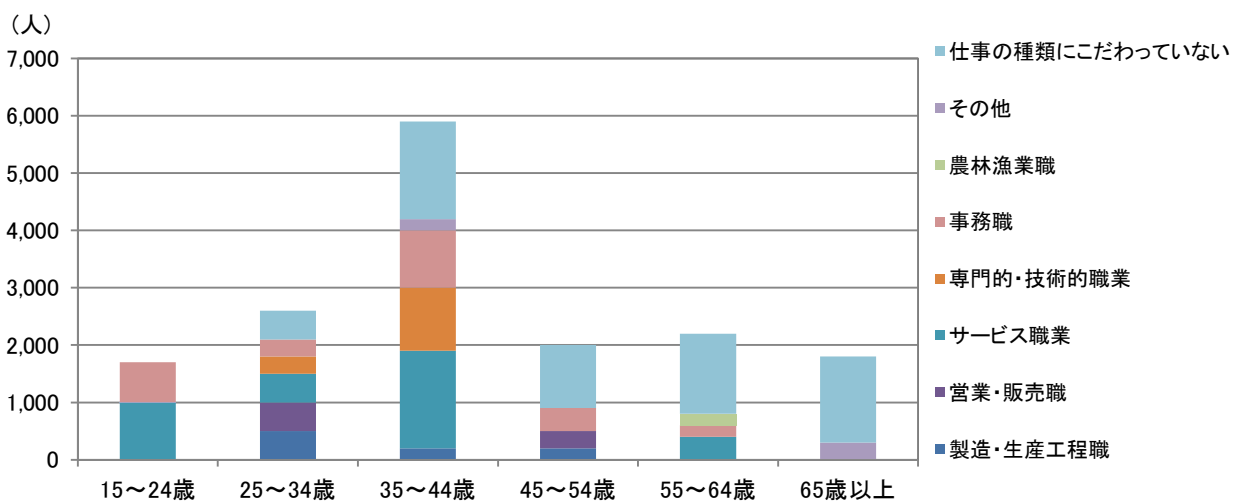
全求職件数に占める女性の割合は、新規求職申込件数に占める女性の割合を算出

全就職件数に占める女性の割合は、就職件数に占める女性の割合を算出

（2）就業希望職種

- 就業を希望する職種を年齢層ごとにみると、**15歳から24歳**までの年齢層ではほとんどが**事務職かサービス職**を希望している。
- **25歳～34歳**の年齢層では、**就業希望は分散**し、製造業を希望する人も多い。
- **35歳～44歳**の年齢層では、自分の経験を生かしたいとする「**専門的・技術的職業**」を希望する人が増えてくる。一方で、**35歳以上**の年齢層では、自分の希望に合った職場の確保に困難が生じるためか、**仕事の種類にはこだわらない**女性も増えてくる。

＜図 1 1＞年齢10歳階級別女性の希望する仕事の種類別無業者数（東三河地域）

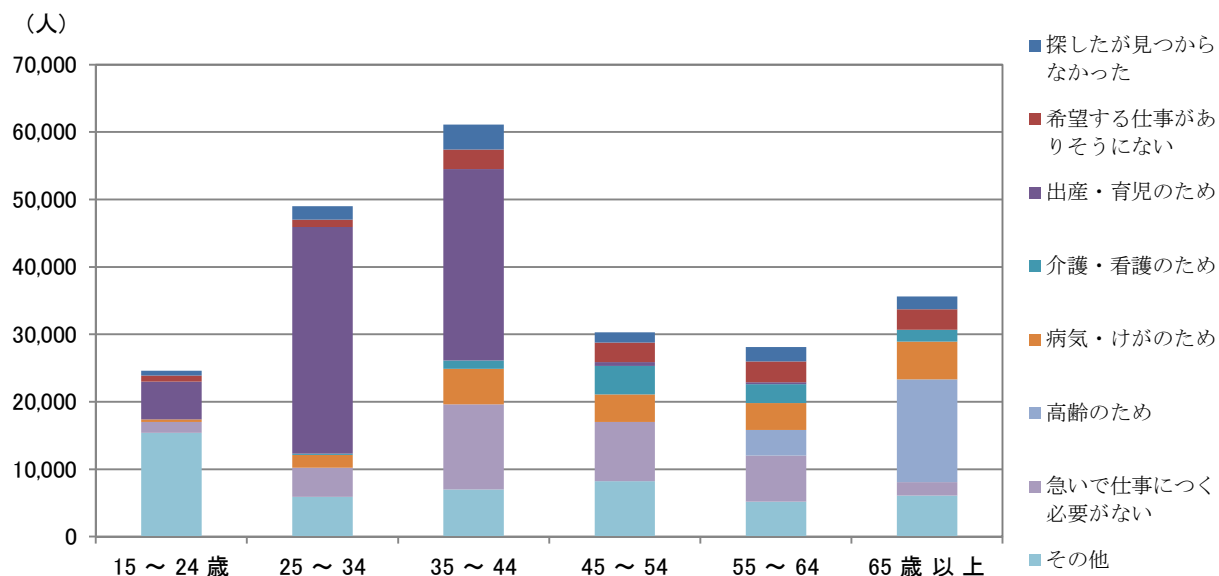


出典：総務省「平成24年就業構造基本調査」

(3) 非求職理由

- 愛知県における非求職者が求職しない理由を調べると、**25歳～44歳**の女性では、「**出産・育児のため**」が最も多い。
- **35歳以上**の年齢層では、「**急いで仕事につく必要がない**」とする割合が増加する。
- 「**探したが見つからなかった**」、「**希望する仕事がないから**」は、非求職の理由では**少数**である。

<図 1 2> 年齢 10 歳階級別女性の非求職理由別就業希望者数（愛知県）



出典：総務省「平成 24 年就業構造基本調査」

(4) まとめ

1 でまとめた東三河における人の流れの特徴と、2 (1)～(3) で見てきた女性を取り巻く現状から、**東三河の女性の活躍に向け、以下の課題を特に重視する。**

- 東三河の女性の有業者率は県内他地域を上回っているものの、出産・育児などの制約により、35歳～44歳の年齢層でキャリアを中断するケースが多い。この年齢層の女性の無業者のうち、6割程度が就業を希望していることから、女性が働き続けられる環境づくりが必要である。
- 出産・育児などの制約により離職した女性の職場復帰や再就職にあたっては、子育てをしながら仕事が続けられるようワーク・ライフ・バランスの推進や、キャリア形成への支援などの取組みが必要である。
- 女性の15歳から24歳の年齢層では、東京圏と名古屋への転出が多いが、25歳から29歳の階層では、西三河への転出が増加する傾向^{*}が見られることから、この動向の分析を踏まえた対応が必要である。

^{*}西三河へ結婚等のため転出しているものと推測されるが、転出理由について継続的に調査を実施する。

3 若者を取り巻く現状

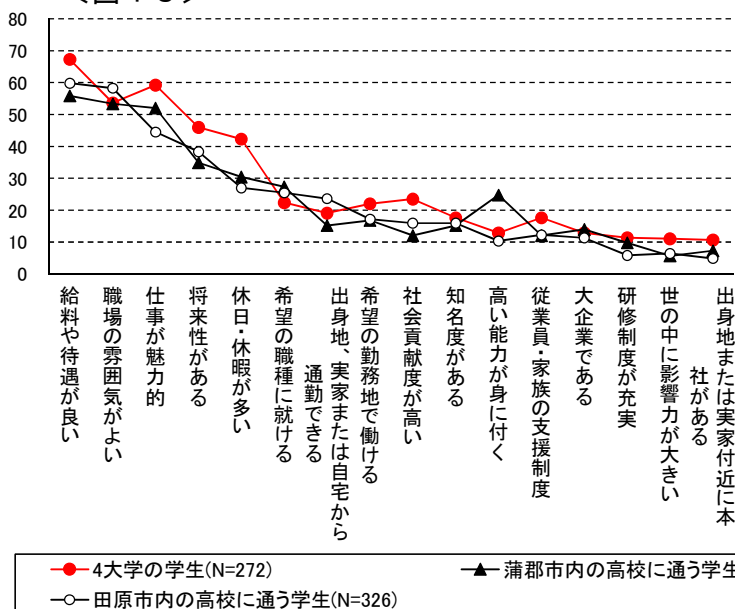
(1) 大学生・高校生に対するアンケート調査結果

- 蒲郡市と田原市の委託を受け、公益社団法人東三河地域研究センターが、東三河の大学生及び高校生を対象に就職先の選定に関するアンケート調査を行った。
- 愛知県では、東三河若者人材確保支援事業において、大学生を対象に就職先の選定に関するアンケート調査を行った。

ア 大学生・高校生の就職先選定の考え方

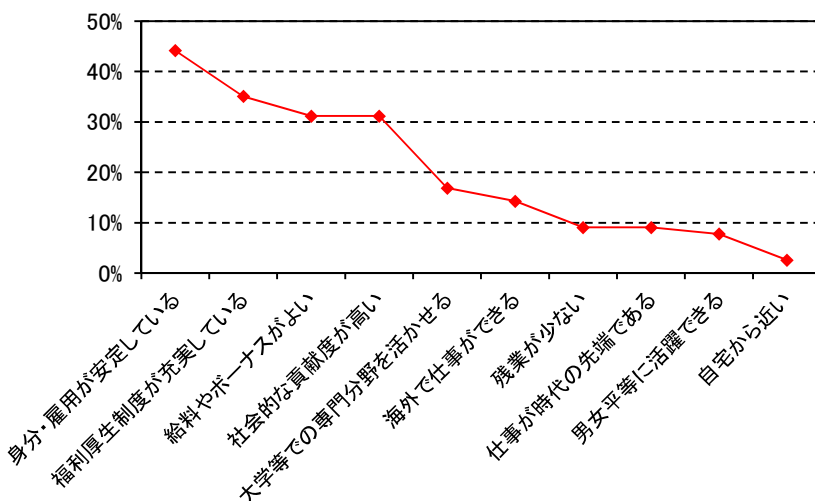
- 就職先の選定においては、「給料や待遇が良い」、「職場の雰囲気が良い」、「仕事が魅力的」が上位を占めており、概ね半数以上が重視している。「出身地、実家または自宅から通勤できる」、「知名度がある」、「大企業である」は、それほど上位ではない。
- 東京圏の大学へ通う学生も、就職先の選定において、「身分・雇用が安定している」、「福利厚生制度が充実している」、「給料やボーナスが良い」を重視している。

<図13>



実施主体：蒲郡市、田原市
 調査対象：愛知大学、愛知工科大学、
 豊橋技術科学大学、豊橋創造大学に通う
 学生 (N=272)
 : 蒲郡市内の高校に通う学生 (N=315)
 : 田原市内の高校に通う学生 (N=326)
 実施年度：平成 27 年度

<図14>

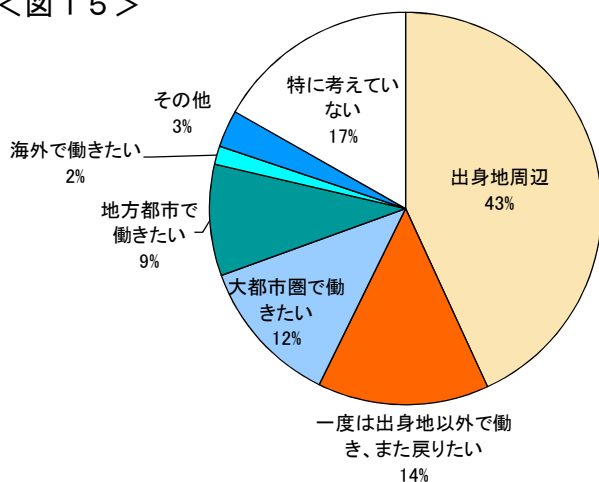


実施主体：愛知県
 調査対象：東京圏の大学に通う学生
 (N=77)
 実施年度：平成 27 年度、28 年度

イ 大学生の働きたい地域

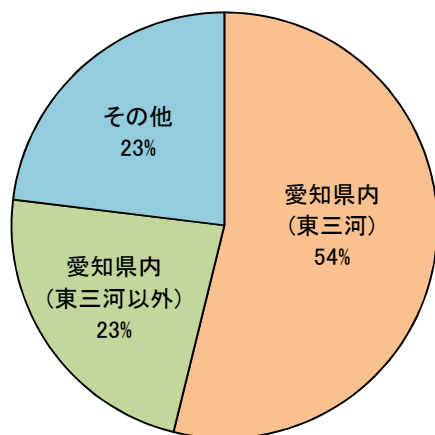
- 東三河の4大学に通う**4割以上の大学生が、「出身地周辺」で働きたいと希望**している。また、「一度は出身地以外で働き、また戻りたい」と希望する大学生も多い。
- 愛知大学地域政策学部に通う東三河出身の学生の**約半数は愛知県内で働きたいと希望**している。
- **東京圏**の大学に通う学生のうち、「**在学している学校の近隣で就職したい**」と希望している学生は**4分の1**にとどまっている。

<図15>



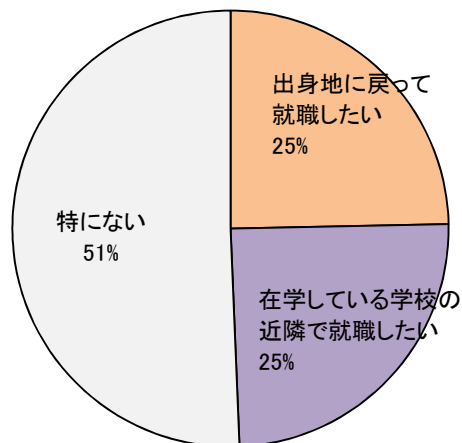
実施主体：蒲郡市、田原市
 調査対象：愛知大学、愛知工科大学、
 豊橋技術科学大学、豊橋創造
 大学に通う学生（N=272）
 実施年度：平成27年度

<図16>



実施主体：愛知県
 調査対象：愛知大学地域政策学部
 に通う東三河出身の学生（N=12）
 実施年度：平成28年度

<図17>

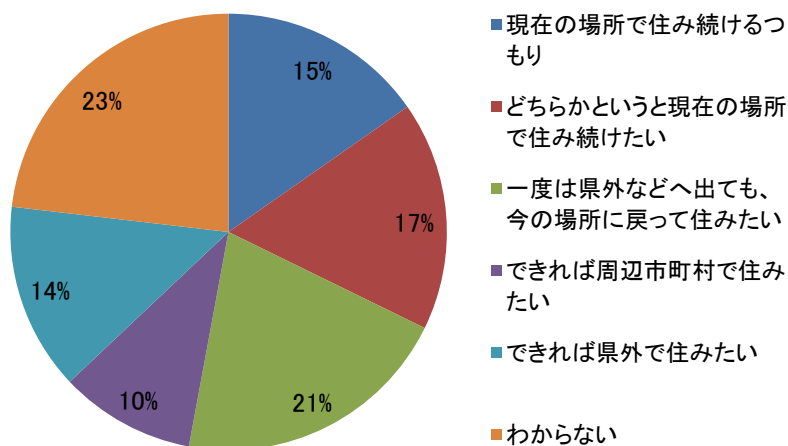


実施主体：愛知県
 調査対象：東京圏の大学に通う学生（N=77）
 実施年度：平成27年度、28年度

ウ 高校生の住みたい場所

- 約 30%が「現在の場所で住み続けるつもり（「どちらかというとも現在の場所で住み続けたい」含む）」と回答している。また、「一度は県外などへ出て、今の場所に戻って住みたい」との回答を加えると、**半数以上の高校生が現在の場所で住みたいと回答している。**

<図 18>

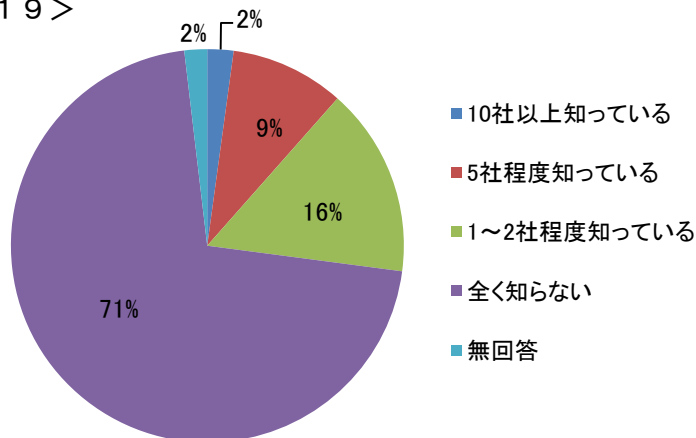


実施主体：蒲郡市、田原市
 調査対象：蒲郡市、田原市内の高校に通う学生（N=641）
 実施年度：平成 27 年度

エ 地元企業の認知度

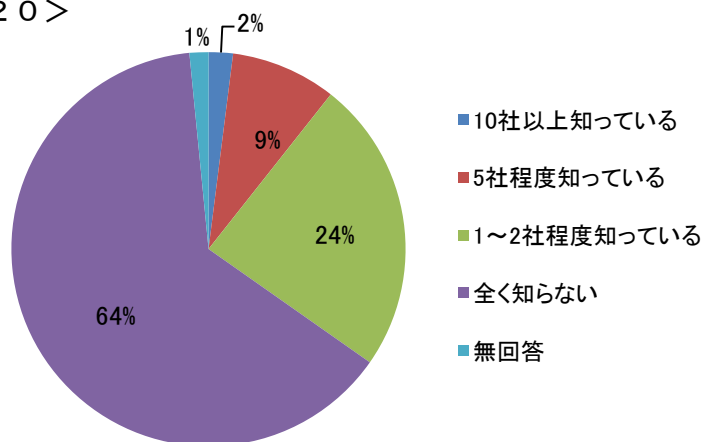
- 大学生、高校生ともに「全く知らない」との回答が半数を超えている。

<図 19>



実施主体：蒲郡市、田原市
 調査対象：愛知大学、愛知工科大学、豊橋技術科学大学、豊橋創造大学に通う学生（N=272）
 実施年度：平成 27 年度

<図 20>



実施主体：蒲郡市、田原市
 調査対象：蒲郡市、田原市内の高校に通う学生（N=641）
 実施年度：平成 27 年度、28 年度

(2) キャリア教育への取組状況

- ほとんどの市町村で、地元企業で働く方を講師に招いた講演会や、職場体験学習など、**様々な社会人と交流する取組**が行われている。
- 市町村によっては、一度に複数の企業から情報が得られる企業展等の実施や、講師として招く職業人から「生き方」、「夢」、「技」等を幅広く学ぶ機会の創出など、**若者の目線に立った取組**も行われている。
- 愛知県では、職業学科の経験のない中学校教員を対象に、東三河管内の県立職業高校を会場として講義や授業実践研修を行い、**教員の資質向上やキャリア教育の推進**に取り組んでいる。
- また、愛知県教育委員会が発行した「**キャリア教育ノート**（夢を見つけ 夢をかなえる航海ノート）^{※1}」に加え、**職業適性検査**や、**職業レディネステスト**^{※2}などが市町村で積極的に活用されている。

<表 3>

	取組内容
豊橋市	<ul style="list-style-type: none"> ○いきいき体験活動(小学校3年生) <ul style="list-style-type: none"> ・職業の疑似体験ができる施設の訪問や、豊橋駅周辺の見学、探検活動 ○職場体験学習(中学校2年生) ○商工会議所との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な職業に携わる方を講師として、職業観だけでなく人としての生き方を学ぶ「ビジネスパーク」を实践
豊川市	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習(全中学校2年生) <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習を十分に行ったうえで、生徒に事業所を選択させ、3日程度の職場体験を実施 ○キャリア教育講演会 <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業で働く方を講師に、講演や講座の実施
蒲郡市	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習(中学生) ○地域の企業等で体験活動(小学生、中学生) ○卒業生や地域で活躍している人の講演(小学生・中学生) ○三高ウォッチング(蒲郡高校、蒲郡東高校、三谷水産高校)への参加(地域の高校を知る活動) ○キャリアフレッシュセミナーへの参加(中学校1年生)
新城市	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験学習(中学2年生) ○地元企業の方から働くことについての講演会・インタビュー(中学生) ○林業・農業体験(中学校) ○「しんしろ企業展」への参加(中学生) ○働く様子の見学・体験(小学生)
田原市	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な人々の働く様子の見学や体験活動(小学生) ○職場体験学習(中学2年生) ○地域の職業人や地域づくりを担う人材が生徒に直接夢を語る「夢 Worker リンク」の実施(小学生、中学生) ○「学校を核とした地域魅力化事業」を実施し、子どもたちが地域の人と関わったり、地域の担い手として活躍できる活動を推進 ○中高連携事業の実施
設楽町	<ul style="list-style-type: none"> ○近隣の事業所を中学生に紹介する「田口高校おしごとフェア」の開催 ○キャリアスクールプロジェクトを通じた職場体験(小学校、中学校) ○地域の名人の技術に触れる、社会人の講演会の実施
東栄町	<ul style="list-style-type: none"> ○「田口高校おしごとフェア」への参加 ○社会人を講師に招く体験型講演会の開催 ○職場体験活動(中学生)
豊根村	<ul style="list-style-type: none"> ○「田口高校おしごとフェア」への参加 ○職場体験学習、職業講話、林業体験、福祉体験の実施 ○高校学習会 <ul style="list-style-type: none"> ・高校の先生を講師に迎え、高校の特色や高校生活について学習

- ※1：一人一人が学んだことや自分自身の成長を記録し、「なりたい自分」や「将来の夢」を見つけ、叶えることができる一助となるような構成。小学校から高校まで継続使用することで、自分自身の成長を知り、自己理解を深める事ができるとともに、教員の指導にも役立つ事ができる。
- ※2：類型化された6つの職業領域（現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的）への興味・自信と3方向の日常行動特性（対情報、対人、対物）から、職業興味と職務遂行に関する自信度、基礎的志向性の特徴が分かる。

(3) 地域教育への取組状況

- 各市町村において、副読本を教材に地域の歴史や文化などの学習に取り組んでいる。
- 地域で活躍している人との交流や、体験活動などを通じた郷土愛や思いやりの心を育む活動に取り組んでいる。

<表 4>

	取組内容	教材
豊橋市	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふるさと教育」の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が連携し、体験活動等を実施 ・伝統的な祭りや行事、歴史的建造物や自然など、地域の特色を活かした教育を展開 ○「地域教育ボランティア」の協力 <ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する歴史や文化等を学ぶ際に協力 	<ul style="list-style-type: none"> ○副読本「かがやくとよはし」 ○郷土学習のすすめ - 郷土学習の授業を創る - ○ふるさと豊橋 - 歴史を紡ぐ偉人たち - ○ふるさと豊橋 - 歴史を紡ぐ遺構たち -
豊川市	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科「こうえんたんけん」(小学1、2年生) ○社会科、総合的な学習「地域教材・人を扱った学習」(小学3、4年生) ○社会科、総合的な学習「国分寺・国分尼寺見学」「戦争体験を聴く会」(小学6年生) ○社会科「歴史の中で地域の人や文化に関連するものを取り上げて扱う」(中学1～3年生) 	<ul style="list-style-type: none"> ○副読本「とよかわ」
蒲郡市	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で活躍している人をゲストに招いて講演 ○地域に根ざした題材を用いて、地域学習の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・塩津小「塩作り」 ・西部小「音楽劇『お皿様』」 ・三谷中「御殿舞」 ・「環境チャレンジ」等 	<ul style="list-style-type: none"> ○副読本「がまごおり」
新城市	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と学校が連携した「共育」により、「新城の三宝」である「自然・ジオ」、「人物」、「歴史・文化」を活用した活動を展開 <ul style="list-style-type: none"> ・市内博物館への校外学習の誘致 ・学芸員の学校への派遣(本物に触れる機会の提供) 	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土読本「わたしたちの新城」 ○博物館が所蔵している資料を活用 ○地域に残る史跡や風景、自然を活用 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史、文化、自然に触れ、それを理解できるようアドバイス
田原市	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源や人材を活かした「ふるさと学習」を推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと学習」を地域創生事業に位置づけ、地域の将来を担う人材育成を図り、地域コミュニティの活性化を図る ○地域の魅力や課題を子供と大人が共に考え、問題解決や地域活性化策に取り組む「共育」を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「共育コーディネーター」を配置し、学校と地域のつなぎ役として活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○副読本「たはら」 ○地域の「ひと・こと・もの」を題材として活用 <ul style="list-style-type: none"> ・自然や農業を中心とする産業、歴史的遺跡や人物、地域に残る伝統芸能など地域の特色を生かした学習を実施
設楽町	<ul style="list-style-type: none"> ○校区内の住民との交流 <ul style="list-style-type: none"> ・住民ボランティアによる「読み聞かせ」教室の開催等 ○伝統芸能等の学習 <ul style="list-style-type: none"> ・地域素材(地域文化、環境、伝統芸能など)を地元の講師から学び、地域の良さを認識する教育を展開 	<ul style="list-style-type: none"> ○副読本「郷土したら」
東栄町	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の歴史や文化の学習(小学3、4年生) ○「天地人教育」(小中学校) <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとを大切に、人間性豊かな人づくりをめざす 	<ul style="list-style-type: none"> ○副読本「とうえい」
豊根村	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふるさと教育」 <ul style="list-style-type: none"> ・豊根小中の連携教育で、9年間を見通したふるさと学習を記録 ・食育の授業「ようこそ先輩」等村内外で活躍している卒業生との触れ合い ・地元の祭りや太鼓等の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○副読本「わたしたちのとよね」 ○村の地図 ○「豊根中学校「ふるさと学習」人材バンク」を作成し、地域人材を活用

(4) まとめ

1 でまとめた東三河における人の流れの特徴と、3 (1) ~ (3) で見てきた若者を取り巻く現状から、**東三河における若者の活躍に向け、以下の課題を特に重視する。**

- 就業先の選定において、給料・待遇、職場の雰囲気、仕事の魅力等を重視する若者が多い。一方、出身地周辺で働きたい、暮らしたいと希望する若者も多いため、地元企業に関する積極的な情報発信が必要である。
- 東三河で育った若者が、就学・就職・結婚・子育てをする際、暮らし全体をトータルでデザインできるよう、豊かな自然、文化、歴史、風土等も含めた東三河の暮らしやすさを伝える取組が必要である。

4 高齢者を取り巻く現状

(1) 国の取組

政府は、人生100年時代を見据えた経済・社会システムを実現するための政策のグランドデザインに係る検討を行うため、平成29年9月に首相を座長とする「**人生100年時代構想会議**」を設置。

第1回の会議では、有識者として招聘された、英国ロンドンビジネススクール教授で「ライフシフト」の著者であるリンダ・グラットン氏から、

①**日本は健康寿命が世界一の長寿社会を迎えており、2007年に日本で生まれた子供については、107歳まで生きる確率が50%もあること**

②こうした超長寿社会においては、これまでの「教育」⇒「仕事」⇒「引退」という3ステージのみで完結する人生ではなく、「教育」「会社勤め」「組織に雇われない働き方」「アドベンチャー・チャレンジ」「旅」「引退・余暇」といった様々なステージを自ら選択する「**マルチステージの人生**」が求められること。

等の提言がなされ、現在、超長寿社会の新しいロールモデルを構築する取組が始まっている。

(2) 高齢者の社会参加に対する意識

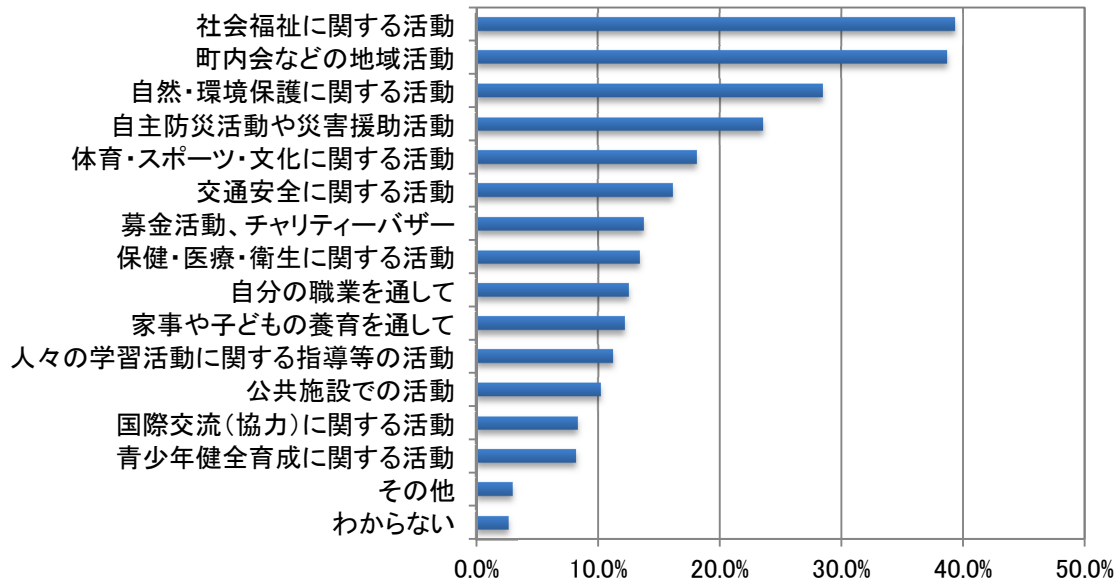
- 政府の世論調査によれば、**社会のために役立ちたいと思っている60歳以上の高齢者は、61.8%**となっており、特に男性で高くなっている。
- **役に立ちたい活動**は、「社会福祉に関する活動」、「町内会などの地域活動」、「自然・環境保護に関する活動」、「自主防災組織や災害援助活動」など**地域貢献的な活動が上位**を占めている。
- 現時点で、多くの高齢者にとって、人生は、従来の3ステージとして認識されており、「**引退**」を前提とした活動に**限定**してしまっていることがうかがえる。

<表5>社会のために役立ちたいと思っている高齢者の状況（全国）

項目	全体		
	男	女	
社会のために役立ちたいと思っている	64.2%	59.5%	61.8%
あまり考えていない	33.8%	38.0%	36.0%
わからない	2.0%	2.4%	2.3%

出展：内閣府 平成28年度世論調査

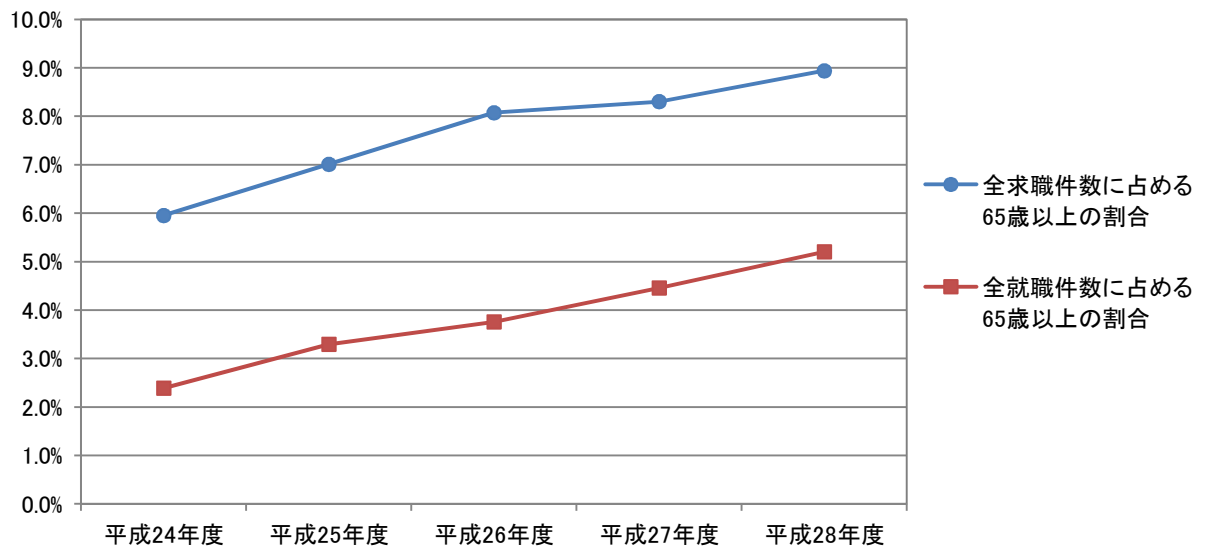
<図 2 1> 高齢者の社会参加の意向（全国）



出展：内閣府 平成 28 年度世論調査

- 東三河地域を所管する職業安定所（豊橋、豊川、新城）が実施している一般職業紹介業務において、求職件数、就職件数に占める 65 歳以上（高齢者）の割合は、年々増加している。

<図 2 2> 東三河のハローワークにおける求職件数、就職件数に占める 65 歳以上の割合の推移



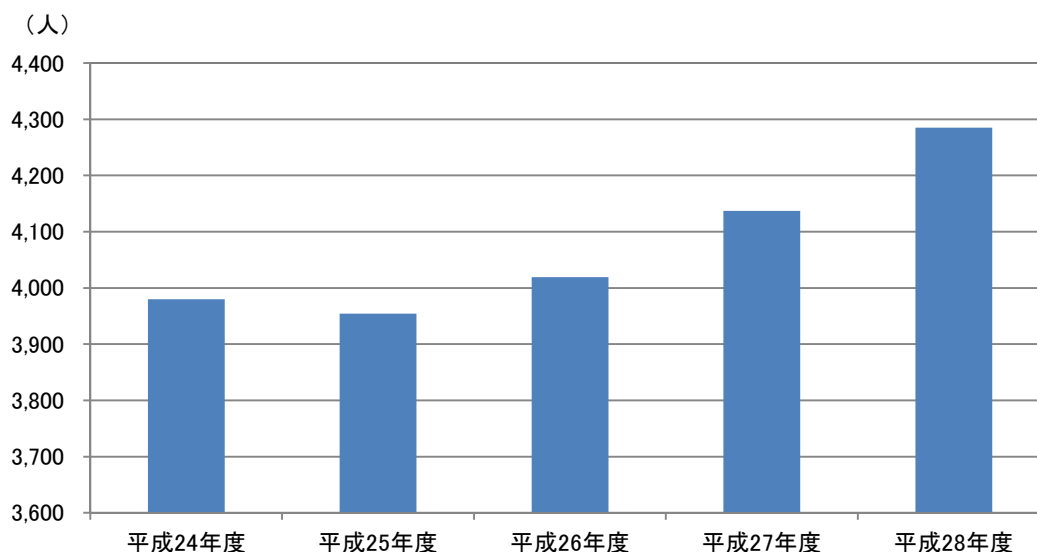
※愛知労働局「愛知労働局年報」より作成

全求職件数に占める 65 歳以上の割合は、新規求職申込件数に占める 65 歳以上の割合を算出

全就職件数に占める 65 歳以上の割合は、就職件数に占める 65 歳以上の割合を算出

○ 東三河のシルバー人材センターの登録者数は、年々増加している。

<図 2 3> 東三河のシルバー人材センターの登録者数の推移

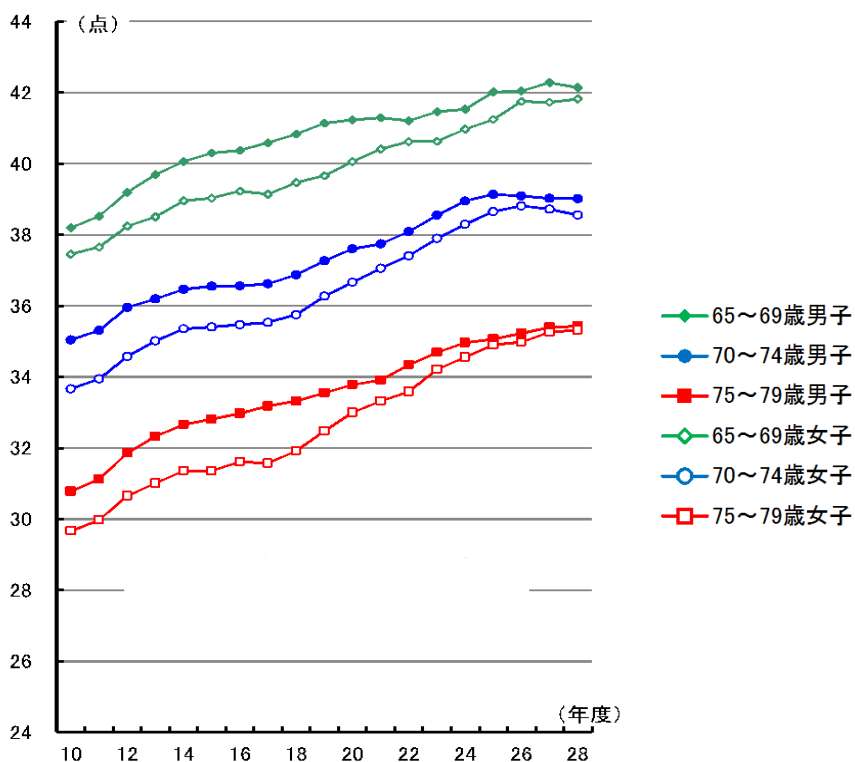


出展：公益社団法人 全国シルバー人材センター事業協会

(3) 高齢者の体力・運動能力の状況

○ **高齢者の新体力テスト**（握力、上体起こし、長座体前屈、開眼片足立ち、10m障害物歩行、6分間歩行の6項目）の合計点について19年間の推移を見ると、**男女とも向上傾向**にある。

<図 2 4> 新体力テストの合計点の年次推移（全国）

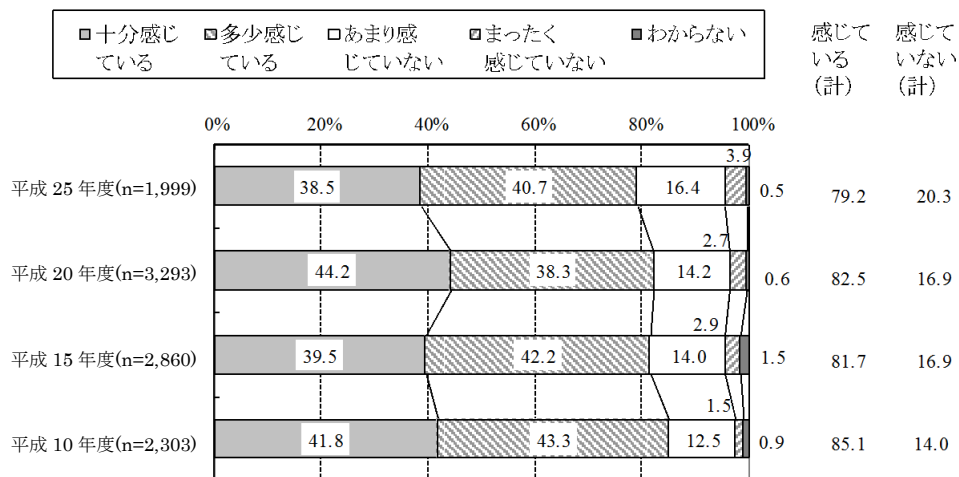


出展：文部科学省 平成 28 年度体力・運動能力調査結果

(4) 高齢者の生きがい

- 国の調査によれば、「あなたは、現在、どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じていますか。」との質問に対し、「**感じている**」と答えた高齢者の割合は全体の約8割となっている。
- 時系列でみると、生きがいを「感じている」と回答した人は**減少傾向**がみられる。

<図 2 5>

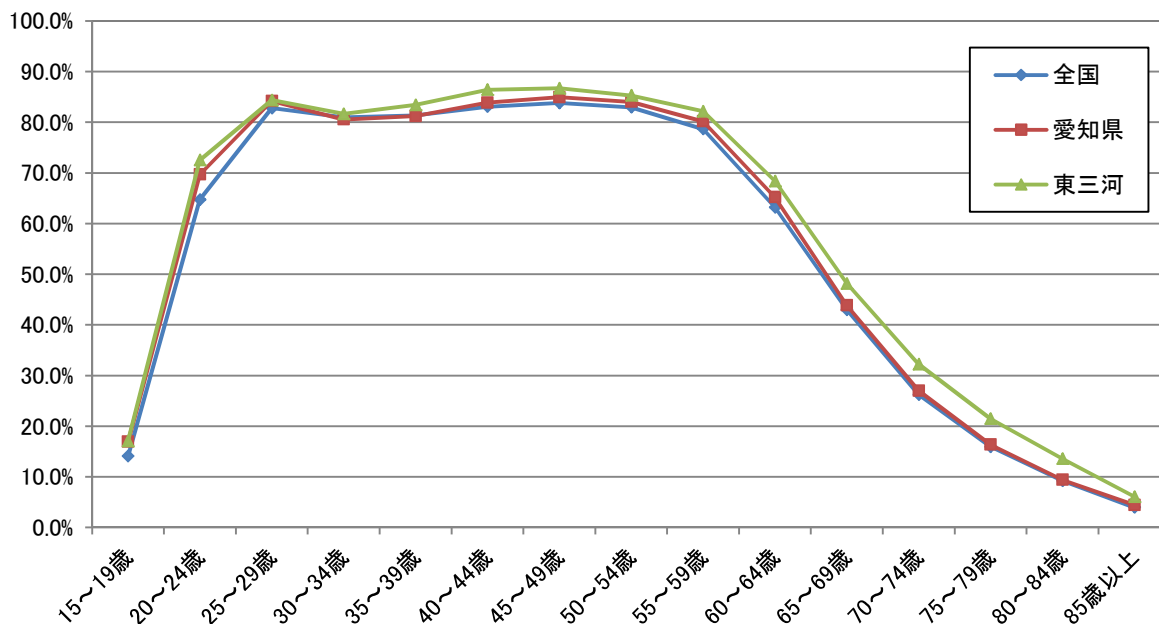


出展：内閣府 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査

(5) 高齢者の就業状況

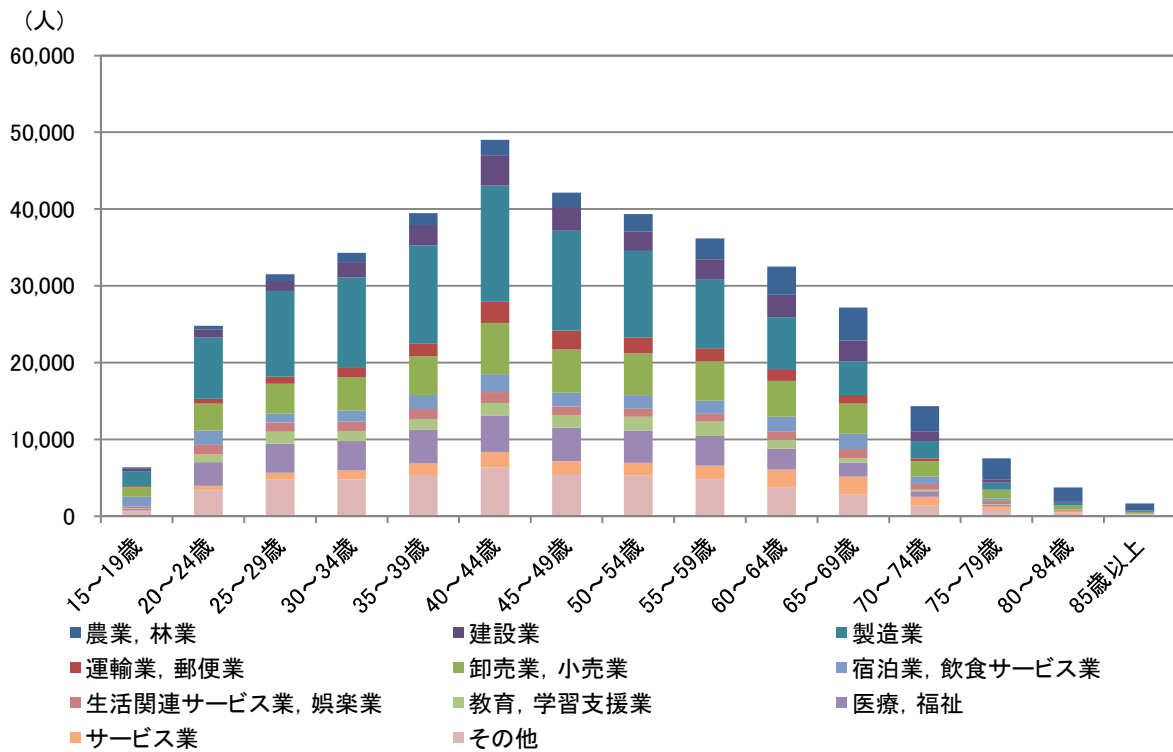
- 東三河における年齢10歳階級別高齢者の有業者率は、**全国や愛知県に比べて高い**。
- このうち65歳以上の高齢者は、「農業、林業」、「製造業」、「卸売業、小売業」への就業者が多い。
- **高齢になるほど、「農業、林業」の従事者の割合が増える**。

<図 2 6> 年齢5歳階級別の有業者率



出展：平成 27 年国勢調査

<図 2 7> 年齢 5 歳階級別の業種別就業者数（東三河地域）



出展：平成 27 年国勢調査

(6) まとめ

1 でまとめた東三河における人の流れの特徴と、4 (1) ~ (5) で見てきた高齢者を取り巻く現状から、**東三河の高齢者の活躍に向け、以下の課題を特に重視する。**

- 6割を超える高齢者が社会のために役立ちたいと思っており、体力的に元気な高齢者も増えている。一方で、生きがいを感じている高齢者は減少傾向にある。高齢者が活躍できる場の拡大と多様化が求められている。
- 今後、高齢者が新たなステージでの活躍を実現できるよう、超長寿社会の生き方を前提にした新たな学びの場の提供等を検討していく必要がある。
- 東三河では、「農業・林業」の担い手として活躍する高齢者が多い。取組に当たっては、こうした地域特性の活用も図っていく必要がある。

Ⅲ 取組体系及び目標

1 取組体系（2つの方針と4つの主な取組）

前述のような課題認識のもと、女性、高齢者及び若者に係る人材育成・確保を推進する取組を次のとおり整理した。

〔2つの方針と4の主な取組〕

1 誰もが能力を最大限に発揮できる環境づくりの推進

- (1) 女性が働きやすい環境づくり
- (2) 高齢者の活躍

2 人材の育成・確保

- (1) 小学生・中学生・高校生を対象とする地域教育・キャリア教育の推進
- (2) UIJターン等の推進

2 目標

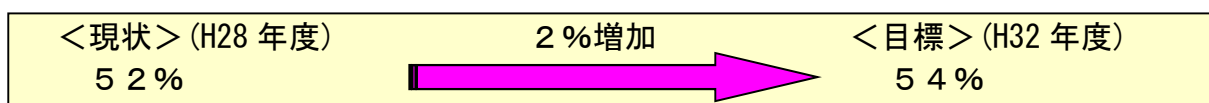
(1) 成果指標の考え方

- IIの2（1）で、東三河地域を所管する職業安定所（豊橋、豊川、新城）が実施している一般職業紹介業務において就職件数に占める女性の割合の推移を示した（9ページ〈図10〉）。この数値の推移には、子育てがしやすい社会基盤や就労環境の整備等、女性の活躍に向けた取組の成果が直接反映されるため、本プランの成果指標とする。
- 女性と同様、高齢者についても東三河地域を所管する職業安定所（豊橋、豊川、新城）が実施している一般職業紹介業務において就職件数に占める割合の推移を示した。（18ページ〈図22〉）。この数値の推移には、高齢者が地域で働ける場の拡大等、高齢者の活躍に向けた取組の成果が直接反映されるため、本プランの成果指標とする。
- 高齢者については、雇用以外にも様々な社会参画の形がある。
シルバー人材センターは、「高齢者が働くことを通じて生きがいを得る」ことや「高齢者の社会参加により活力ある地域社会をつくりだす」ことを目的としており、ボランティアなどの社会貢献活動も行っていることから、シルバー人材センターの登録者を成果指標とする。
- 若者については、各方面で東三河の仕事環境に関する情報提供の取組が重点的に行われており、成果を把握する上で、地元企業の認知度を成果指標とする。
公益社団法人東三河地域研究センターのアンケート（13ページ〈図19〉）では、地元企業を1社以上知っている学生の割合が27%（平成27年度）であり、プランでは50%の認知度を目標と設定する。なお、認知度については、平成30年度以降、東三河の4大学の協力を得て、在学生（抽出）を対象としたアンケートを行い、現状値を含め把握する。

(2) 目標値

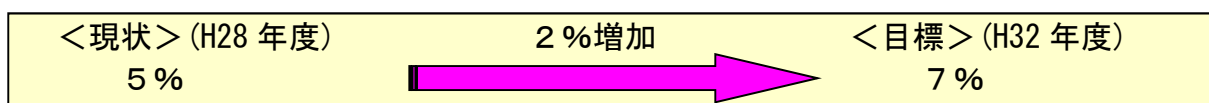
目標1 東三河の就職件数に占める女性の割合

現状の東三河の就職件数に占める女性の割合約 52%を地域全体で 2%増加し、54%を目指す。



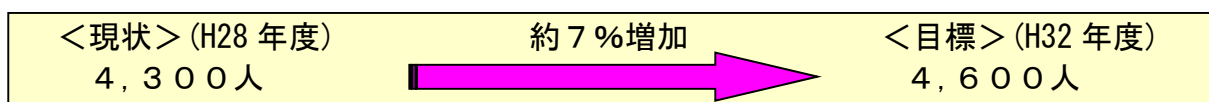
目標2 東三河の就職件数に占める高齢者（65歳以上）の割合

現状の東三河の就職件数に占める高齢者(65歳以上)の割合約 5%を地域全体で 2%増加し、7%を目指す。



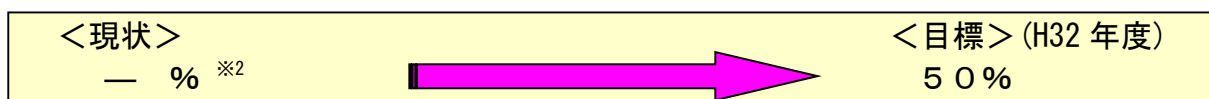
目標3 東三河のシルバー人材センターの登録者数

現状のシルバー人材センターの登録者数約 4,300 人を地域全体で約 7%増加し、4,600 人を目指す。



目標4 東三河4大学の学生の東三河の企業に対する認知度^{※1}

大学生の東三河の企業に対する認知度について、50%の認知度を目指す。



※1 東三河の地元企業を1社以上知っている学生の割合

※2 平成30年度にアンケートを行い把握(参考値27%(平成27年度)。13ページ〈図19〉参照)

IV 主な取組内容

1 誰もが能力を最大限に発揮できる環境づくりの推進

(1) 女性が働きやすい環境づくり

【女性の活躍に向けた課題（再掲）】

- 東三河の女性の有業者率は県内他地域を上回っているものの、出産・育児などの制約により、35歳～44歳の年齢層でキャリアを中断するケースが多い。この年齢層の女性の無業者のうち、6割程度が就労を希望していることから、ワーク・ライフ・バランスの推進等、就労を望む女性が働き続けられる環境づくりが必要である。
- 出産・育児などの制約により離職した女性の職場復帰や再就職にあたっては、子育てをしながら仕事が続けられるようキャリア形成への支援などの取組が必要である。
- 女性の15歳から24歳の階層では、東京圏と名古屋への転出が多いが、25歳から29歳の階層では、西三河への転出が増加する傾向が見られることから、この動向を踏まえた対応が必要である。

- 女性が結婚や出産により離職する必要がなくなるよう、また、いったん離職してもこれまでのキャリアを活かしながら再就職できるよう、**女性の活躍に向けた気運を醸成**し、男性の働き方も含めた**ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた職場環境の整備促進や社会全体の気運醸成**に取り組む。
- あわせて、女性が働くことに生きがいを感じ、自らの成長を実感できる環境をつくるため、**キャリア形成や、就業・就農・起業に向けた支援**に取り組む。
- **子育て・育児の環境のさらなる充実**をはかるとともに、東三河で子育てすることの具体的なメリットが若年女性に的確に伝わるよう、情報発信に取り組んでいく。

【工程表】

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
①女性の活躍に向けた気運の醸成				
あいちの女性活躍促進会議、女性の活躍促進サミットの開催	県			
「あいち女性輝きカンパニー」※1の認証	県、経済関係団体			
中小企業等の女性活躍を促進	県、経済関係団体			
県内企業の魅力や活躍する女性の情報を若い女性に向けて発信 ・主に首都圏在住の女性を対象にした移住体験ツアーの開催 ・東京圏在住の愛知県出身女性等に、愛知の暮らしや仕事などに関する情報を提供	県、市町村			
女性の雇用促進と定着を目指す事業所の取組への支援 ・女性従業員専用のキッズスペース、トイレ、更衣室、休憩室の設備の整備に要する経費への補助	市町村			

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
・事業現場における女性従業員専用の仮設トイレ及び仮設更衣室・休憩室のレンタル・リースに要する費用への補助				
②ワーク・ライフ・バランスの推進				
愛知県ファミリー・フレンドリー企業 ^{※2} の登録拡大	県、経済関係団体	→	→	→
ワーク・ライフ・バランスの啓発	県、市町村	→	→	→
③女性のキャリア形成への支援				
女性の再就職への支援強化 ・「あいち子育て女性再就職サポートセンター」の運営 ・女性の再就職に向けたワークショップ、職場実習、無料相談会等の実施 ・「愛知県ナースセンター」を活用した結婚や出産・育児等を機に離職した看護職員の再就職支援 ・託児サービスつき職業訓練の実施	県、市町村	→	→	→
育児等との両立に配慮した在宅型就職支援訓練の実施	県	→	→	→
女性の社会進出・就労への支援 ・エンパワーメント講座の開催	市町村	→	→	→
女性のスキルアップ支援 ・女性従業員のスキルアップを支援するため、事業者が負担した業務上必要な国家資格取得費用を助成	市町村	→	→	→
④就業・就農・起業への支援				
女性起業家の育成・促進 ・女性起業コーディネーターの育成 ・女性ビジネスプランコンテストの開催 ・農業分野における女性起業家の確保・育成 ・女性の起業・創業支援	県、市町村	→	→	→
女性農業者向け研修の実施 ・基礎知識、スキル取得に向けた研修や、自発的な意識向上を目指した女性農業者の交流を推進	県、市町村	→	→	→
滞在型農業体験の希望者を募集 ・滞在型農業体験の場にて独身男女の交流の場を提供することで、結婚による定住を促進	市町村	→	→	→
創業に係るセミナーの開催や創業支援の実施	市町村	→	→	→
⑤子育て・育児の環境のさらなる充実				
ネットワークづくり ・企業で活躍する女性のネットワークづくり	県	→	→	→
仕事と育児の両立を促進する保育環境の充実 ・駅前・駅ナカ保育の検討	県	→	→	→
定時退社や有給休暇取得の促進	県、経済関係団体	→	→	→
男性のワーク・ライフ・バランス確保の促進	県、経済関係団体	→	→	→
男性の育児参加の促進 ・育児休暇取得の推奨・促進	県、経済関係団体	→	→	→
育児への支援 ・育児相談 ・予防接種費用の助成 ・各種検診の充実	市町村	→	→	→

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯の経済的負担軽減 ・切れ目のない子育て相談 ・保育園・幼稚園から認定こども園への移行を推進 ・「赤ちゃんの駅」の整備・拡充 ・子育て世代の仲間づくりを地域で支援 ・三世帯同居・近居の促進に向けた検討 ・子育て支援センターを軸に、関係機関、団体などが連携し、地域全体で子どもたちを見守り、子育てを支援する仕組みを構築 ・通常保育、時間外保育、一時預かり、保育園の入所予約制度、病児・病後児保育などの保育サービスや保育施設等の充実 ・男性の育児参加促進 				

※1 女性の活躍促進に向け、トップの意識表明や採用拡大、職域拡大、育成、管理職登用のほか、ワーク・ライフ・バランスの推進や働きながら育児・介護ができる環境づくりなどの取組を行っている企業等を「あいち女性輝きカンパニー」として県が認証。東三河では平成29年12月11日現在19社が認証を受けている。

※2 仕事と育児・介護・地域活動など仕事以外の活動を両立できるよう積極的に取り組む企業を「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」として登録・紹介。登録企業にはコンサルタントの派遣や表彰等を実施。東三河では平成29年12月11日現在113社が登録。

【参考】

	名古屋市	尾張 (名古屋市除く。)	西三河	東三河	県外	計
あいち女性輝きカンパニー 認定企業数 (H30.2.28現在)	195 (53.0%)	67 (18.2%)	58 (15.8%)	21 (5.7%)	27 (7.3%)	368 (100.0%)
愛知県ファミリー・フレンドリー企業 登録事業者数 (H30.2.28現在)	396 (31.2%)	366 (28.8%)	391 (30.8%)	117 (9.2%)		1,270 (100.0%)
あいちワーク・ライフ・バランス 推進運動2017 賛同事業所数	24,025 (59.8%)	8,184 (20.3%)	5,694 (14.2%)	2,282 (5.7%)		40,185 (100.0%)
上記のうち、11月中の定時退社 従業員数	285,512 (68.3%)	70,865 (17.0%)	42,657 (10.2%)	19,031 (4.6%)		418,065 (100.0%)
<参考> 事業所数 (H26経済センサス)	124,636 (38.9%)	106,050 (33.1%)	57,795 (18.0%)	32,127 (10.0%)		320,608 (100.0%)

【参考事例：東三河のモノづくり現場で活躍する女性】

オトメゴコロをくすぐるモノづくり × コスメ

プラスチック製品製造業

株式会社アイセロ
あいち県 (豊橋市)

品質管理改善課
中村 百恵さん

オトメゴコロをくすぐるポイント

顧客が製品知識を駆使しながらの仕様が作図は「潔癖心」と「こだわり」が伝わる文章が響

ココにときめく!

一つひとつの仕事を正確に終了したとき、成長の喜びを感じます

アイセロでは「包装」の分野でもさまざまな製品をつくっています。高級化粧品用プラスチック容器のクリーンボトルをはじめ、世界で初めて商品に包まれたものもいくつかあります。私はクリーンボトルを担当しており、主にお客様向けの納入仕様書を作成しています。開発担当者や営業との連携が大事で、製品の仕様・知識・必須の専門性の高い職場です。期程がある仕事なので他部署を含めたスケジュールの管理が大事ですが、ひとつの仕事を正確に終了したときに達成感があります。中学生の頃に「見えているものだけがすべてではない。見えないところに大切なものがある」と伝えたことがあります。同様に私たちがしているような隠れた仕事も、モノづくりの一端を担っていると実感しています。

長くて働きやすい環境づくりに女性社員を応援しています

両休みの場合、業務の責任が重くても、短期間で終わる仕事が多いです。さまざまな分野の人もが集まるので、いろいろなスキルや経験が活かせると思います。女性社員は、大歓迎です。

製造部長 品質管理改善課 大田 祥宏さん

6

ココがすごい!あいちのモノづくり × 未来を担う

生産用機械器具製造業

オーエスジー株式会社
あいち県 (豊川市)

デザインセンター 開発グループ
開発技術チーム ミリング班 エンジニア
満川 綾乃さん

ココがすごいポイント

クルマやバイクなどの部品をモノから製造する産業で幅広い分野で活躍している若手エンジニア

ココにときめく!

“雨降れば雨どい”成長でき、社会に役立つモノをつくっていると感じます。奥が深い仕事に満足しています。

エンジニアとして、未来を担う仕事の現場にいます!

モノづくりに興味を持ったのは小学生のころ。パソコンや金型加工工場を見学し、「機械がおもしろい」と思いました。好奇心旺盛な性格もモノづくりに合っていたのかもしれません。仕事では、モノの形状をつくる前工程であるエンドミル加工を担当し、試作機で製品の精度や検査をしています。いまの担当は7手ですが、異業体でも経験して幅広い知識も身につけた女性技術者としてさまざまな製品にかかわってきました。社会の発展とともに製品の材料も変化しているので、新しい知識や技術を習得していくのもやりがいを感じます。設計・開発とチームを組み、ときにはお客様立ち会いでの試製などもあり、関係感があります。女性だからというより、好きなことを続けていることが大事だと実感しています。

※高度な加工機を動かす、調整も大変な仕事です。

開発にあいちのモノづくり

企業を創るための重要なツール

ロボット

国内工場グループの製品をはじめ、海外工場がさまざまなモノづくりを支えています。

モノづくり女子を支えるカギ

女性にも男性にも働きやすい職場環境を整えています

就業支援として働きやすい環境づくりが重要で、男女の区別なく同じ仕事で頑張っています。会社としては女性社員が増えているので、就業・育児を両立しやすい仕事環境を整えています。

デザインセンター 開発グループ 開発技術チーム ミリング班 小林 正樹さん

7

ココがすごい!あいちのモノづくり × オンライン

生産用機械器具製造業

西島株式会社
あいち県 (豊橋市)

製造課 2 課
エンジニア 鈴木 葉子さん

ココがすごいポイント

完全カスタマイズしたオンラインの工作機械をつくっている

ココにときめく!

三次元 CAM を使って、より早く、より正確にプログラミングできるのが楽しい。

パソコンもほとんど使えなかった私が専用ソフトで部品加工のプログラミング

西島は、自動車などをつくるための工作機械を製造している会社です。私の仕事は、CAM というソフトを使って、部品を加工するためのプログラムを作成すること。部品を製造するための装置を動かすからプログラミングするのですが、会社に入ったばかりのころは図面の見方や、加工とはどういうことかわからなかった。パソコンもほとんど使えなかったのが大変でした。図面を見ればわかるという部分もあって、加工現場で実際の部品を確認して、わからなかった場合は現場の方や先輩と上司に質問、それを私のオリジナル「マル秘ノート」にどんどん書きこんで仕事を覚えていきました。そんな私がいまは一人前のエンジニア。もうすぐ西島で開発した三次元 CAM が完成するのを楽しんでいます。早く使い方をマスターして、より早く、より正確なプログラムを作成できるようにしたいです!

※高度な加工機を動かす、調整も大変な仕事です。

開発にあいちのモノづくり

お客様が 100 社あわせて 100 種類の工作機械をつくらなければならない。西島の工場はすべてつくることができるのが強み。

モノづくり女子を支えるカギ

女性が働きやすいと男性も働きやすい会社が良くなる改善提案は大歓迎!

女性の改善提案を取り入れて、CAM がより広く使われる環境を整えています。男性が得意な作業でも、もちろん男性も得意な作業も、互いに強みを出し合っています。

開発部長 西島 葉子さん

8

ときめくモノづくり～キラリ輝くモノづくり女子の働き方（愛知県制作）より抜粋

【参考事例：あいち・ウーマノミクス推進事業「輝く女性 ソーシャルビジネスプランコンテストあいち 2017」】

介護・福祉、子育て、地域コミュニティの形成等、身近な社会問題の解決を促すとともに、地域における新たな起業や雇用の創出等が期待できるソーシャルビジネス*分野における女性の起業を促進するため、ビジネスプランコンテストを開催し、優秀なプランに対し、事業化を支援。

※ 介護・福祉、子育て、地域コミュニティの形成等、身近な社会的課題の解決をビジネスの手法を用いて継続的な事業活動として進めていく取組。

(以下、東三河関係受賞者)

<愛知県知事賞>

【女性活躍支援部門】

●鈴木佐和子さん（豊川市・個人）

産後女性と家族のための産後ケアハウス「虹色びれっじ」の設置

（協賛機関賞：クレディセゾン東海支社賞も同時受賞）

- ① 受賞後の約6か月間、事業化に向けたハンズオン支援を実施
- ② 成果発表会での事業発表
- ③ 上記支援終了後、協力機関等による支援の継続

<協力機関賞>

【愛知銀行賞・なでしコンサル東海*賞】

●辻本奈々さん（名古屋市・個人）

「見て触れて学んで作る」を活かした手作りコスメによる地域創生

（事業化地域：北設楽郡東栄町）

- ① 愛知銀行提供ラジオ番組への出演
- ② なでしコンサル東海による事業支援、相談等の一部無償化、女性起業家向け会員セミナーへの参加

※ 平成29年12月1日より「ブライトウーマン・コンサルタント」に名称変更



(H29. 10. 10 最終審査会・表彰式)
知事賞受賞 鈴木佐和子さん（前列右端）

(2) 高齢者の活躍

【高齢者の活躍に向けた課題（再掲）】

- 約6割を超える高齢者が社会のために役立ちたいと思っており、体力的に元気な高齢者も増えている。一方で、生きがいを感じている高齢者は減少傾向にある。高齢者が活躍できる場の拡大と多様化が求められている。
- 今後、高齢者が新たなステージでの活躍を実現できるよう、超長寿社会の生き方を前提にした新たな学びの場の提供等を検討していく必要がある。
- 東三河では、「農業・林業」の担い手として活躍する高齢者が多い。取組に当たっては、こうした地域特性の活用も図っていく必要がある。

- **働くことを希望する高齢者の就労促進**に加え、高齢者が自らの知識や経験を社会に伝える場の創出等も含め、**高齢者が活躍する場の拡大**に取り組む。
- 高齢者が活躍できる場の多様化に向け、**新たなキャリアの形成に向けて学ぶ機会の提供**に取り組む。
- **農業等の分野において、高齢者の活躍に向けた支援**について検討を行う。

【工程表】

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
①働くことを希望する高齢者の就業促進				
高齢者の能力を活用したい企業とのマッチングを支援	県、市町村、経済関係団体	→		
シルバー人材センターの支援	市町村	→		
②高齢者が地域で働ける場や社会の支え手として活躍ができる場の拡大				
超長寿社会において、収入を得ながら社会とのつながりを切らさない暮らし方、働き方を検討	市町村	→		
高齢者の健康と体力の保持、増進 ・老人クラブ活動への支援 ・地域への貢献活動の支援 ・オープンカレッジ（生涯学習活動）への支援	県、市町村	→		
地域における支え合い活動の創出支援	市町村	→		
地域における新たな雇用の場として、旧小学校区単位で高齢者の拠点となる高齢者等生活支援拠点施設を整備	市町村	→		
高齢者が講師になって、平日夜や休日に子供を対象とした農作業や昔遊びなど地元の生活に関連した体験学習を実施する機会を創設	市町村	→		
社会福祉協議会のボランティアセンターと連携し、特技や知識を持っている住民を人材バンクに登録	市町村	→		
シルバー人材センターの支援（再掲）	市町村	→		
シニア人材の活用促進	東三河広域連合	→		
③新たなキャリアの形成に向けて学ぶ機会の提供				
社会人キャリアアップ連携協議会による講座情報等の提供	市町村、大学、県	→		

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
④農業等の分野において高齢者の活躍に向けた支援				
営農を希望する人材（高齢者を含む。）への支援 ・農業の基礎を学ぶ研修の実施 ・見学ツアーの実施	市町村・農業団体	→		
農作業ができる人材を斡旋する人材バンクの設立・運営	市町村・農業団体	→		
無料職業紹介所の設立・運営	市町村・農業団体	→		

2 人材の育成・確保

【若者の活躍に向けた課題（再掲）】

- 就業先の選定において、給料・待遇、職場の雰囲気、仕事の魅力等を重視する若者が多い。一方、出身地周辺で働きたい、暮らしたいと希望する若者も多いため、地元企業に関する積極的な情報発信が必要である。
- 東三河で育った若者に、就学・就職・結婚・子育てをする際、暮らし全体をトータルで比較できるように、東三河の暮らしやすさを伝える取組が必要である。

(1) 小学生・中学生・高校生・大学生を対象とする地域教育、キャリア教育の推進

- 地元企業に関する積極的な情報発信を行うため、職場体験やインターンシップの実施など、小・中・高等学校を通じ、外部の教育資源を積極的に活用しながら、**キャリア教育の充実**を図る。
- また、地域に関する歴史や文化を学び、地域の良さを体験する**地域教育の充実**を図ることにより、東三河で働き、暮らすことも選択肢の一つであることを若者に伝える。
- 情報を発信するだけでなく、地域との関わりの中で自らキャリアを選択し、高める力を育てるため、**若者が活躍できる風土づくりや、グローバル人材の育成、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱された「Society5.0」^{*1}に対応できる人材の育成等**にも取り組む

〔工程表〕

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
① キャリア教育・地域教育の充実				
普通科の教育課程に体験的・実践的な学習を行う専門科目等を取り入れることで、時代の変化や生徒のニーズに応える新たなコースを設置 ・豊橋南高校に教育コースを設置 ・福江高校に観光ビジネスコースを設置	県			→
新城高校と新城東高校を統合し、文理系と専門系の2つを合わせ持つ新しいタイプの総合学科として新城有教館高校を開校	県			→
県立高校において地域産業の担い手を育成する教育プロジェクトを創設 ・豊橋西高校の普通科を総合学科に改編し、体系的なキャリア教育により、地域の発展を支える人材を育成 ・豊橋工業高校に、県内初となるロボット工学科を設置し、地域の産業界を担うモノづくり人材を育成 ・渥美農業高校では、「あつみ次世代農業創出プロジェクト」を推進し、技術革新に対応し、世界を視野に入れた次世代の農業にチャレンジする後継者を育成	県			→
「キャリア教育ノート」を活用したキャリア教育の推進	県・市町村			→

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
東三河の小学校、中学校、高校、特別支援学校の連携による「生きる力」の育成への取組 ・高校生が自分の学校を中学生に紹介するキャリアフレッシュセミナーの開催 ・長期的な見通しを持ったキャリア教育を行うための知識と経験を養うための異校種間交流の推進	県・市町村			→
公共施設等を活用した学びの機会の創出 ・ほの国こどもパスポート ^{※2} 利用拡大に向け対象施設を巡るスタンプラリー等を実施	東三河広域連合			→
小中学生を対象とする出前講座の実施 暮らし方（ライフスタイル）を紹介する冊子の発行	市町村			→
三河湾環境チャレンジ ^{※3} の推進	市町村			→
様々な職業に携わる方を講師として、職業観だけでなく人としての生き方を学ぶ「ビジネスパーク」を実施	市町村、 経済関係団体			→
第一線で働いている地域の職業人を中学校に招き「仕事について」の講座を開催	市町村、 経済関係団体			→
小中学生を対象に、学校教育における「ふるさと学習」「職場体験」などを地域と共同して行う事業を実施	市町村			→
高校生向けキャリアデザインの支援 ・多様な働き方を実現するためのワークショップを実施 ・田口高校で地元企業が、中学生、高校生に仕事の魅力を紹介する「お仕事フェア」を開催	市町村			→
学生に対し、東三河の企業の魅力等に関する情報を提供	大学			→
「Society5.0」に対応できる人材の育成 ・プログラミング教育の充実 ・技能更新教育の充実 ・グローバル教育の推進	市町村			→
②若者が活躍できる風土づくり				
起業プランの募集及び優秀なプランへの支援	県			→
若者が自ら立案する施策の実施及び「若者議会」 ^{※4} の運営	市町村			→
都会と同じく学力を強化する機会を提供できるよう、住民ニーズを把握しながら、放課後や休日に公営塾の開設を検討	市町村			→
給付型奨学金の創設	市町村			→
③グローバル人材の育成				
県立高校においてグローバルリーダーを育成する教育プロジェクトを創設 ・時習館高校を「あいちグローバルハイスクール」に指定し、海外の高校との交流活動などを実施	県			→
グローバル化に向けた教育環境の研究	県、市町村			→

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
英語で学ぶ学校作り	市町村			→
友好都市の若者との交流	市町村			→

- ※1 サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会(Society)。狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、国の第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。
- ※2 東三河地域に在住または在学の小中学生に配布されているカードで、対象施設の窓口で提示すると、入場料等が無料となる。東三河地域のさらなる住民交流を促進し、地域全体の活性化を図るとともに、こどもたちの豊かな人間性を培うことを目的とする。
- ※3 三河湾浄化とアオサ処理に関する循環型システム構築に向け、アオサに関する現状把握・実態調査をはじめ、事業採算性の評価を踏まえた実用化にむけたモデル実験及び事業主体の調査を実施。
- ※4 「新城市若者条例・新城市若者議会条例」に基づき平成27年4月1日設置。「若者が活躍できるまち」を目標に、若者をとりまくさまざまな問題を考え、話し合うとともに、若者の力を活かすまちづくり政策を検討。

(2) UIJターン等の推進

- 「UIJターン等による産業人材の確保」は、平成27年度策定の主要プロジェクト推進プラン「地方創生事業の広域展開」に沿って、現在取り組んでいる。
- 本プランでも、引き続き東三河地域の大学に通う学生や、大都市圏の大学に進学した地元出身者等に対し、**若者と地元企業とのマッチング支援**や**就業・就農・起業への支援**等従来の取組を継続するとともに、人生設計の選択肢として、東三河での就業・定住が意識してもらえるよう**東三河の暮らしやすさの見える化と地域内外への情報発信**を行う。
- 20代女性の大都市への転出が多いことから、情報発信に当たっては、**特に大都市へ進学した女性に的確に情報が伝わるよう発信方法を工夫**する。

〔工程表〕

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
①若者と地元企業とのマッチング支援				
首都圏や名古屋圏の若者等を対象とした東三河の企業とのマッチングの支援 ・首都圏や名古屋圏の大学に東三河の企業情報を発信 ・ほの国東三河応援倶楽部 ^{※1} や母校の同窓会等を活用し、地域外へ転出した東三河出身者に情報発信 ・東三河ブランドショップ ^{※2} 等を活用し企業と意見交換する機会を提供	県、市町村、東三河広域連合			→
地元大学や地元出身の大学生が企業関係者と交流できるカフェを喫茶店や大学構内等、学生が気軽に立ち寄れるスペースに設置	市町村、東三河広域連合、経済関係団体			→
インターンシップの支援 ・東三河でのインターンシップ受け入れ企業の情報を集約し、地元大学や地元出身の大学生等とのマッチングを図る ・東三河県庁や市町村、商工会議所等と連携して、受け入れ企業への支援を実施	東三河広域連合、経済関係団体			→
三河中央「人・モノ・地域づくり」コンソーシアム ^{※3} の取組推進	市町村			→
奨学金の返還支援	市町村			→
外国人留学生の地域定着・活躍促進 ・技術系を中心にアジア諸国から優秀な留学生の受入を行い、学費等の奨学金を支給 ・留学生と企業との交流・相互理解を図り、留学生の県内企業への就職を促進	県			→
②就業・就農・起業への支援				
農業分野における新たな高等教育機関の設置を目指した取組	大学			→
滞在型農業体験の希望者を市外から募集 ・滞在型農業体験の場にて独身男女の交流の場を提供することで、結婚による定住を促進	市町村			→

取組内容	主な取組主体	実施年度		
		H30	H31	H32
遊休農地の把握・再整備を行い安定した収益を得られる農地に転換することでU I J ターンによる新規就農を促進	市町村			→
創業に係るセミナーの開催や創業支援の実施	市町村			→
③東三河の暮らしやすさの見える化と地域内外への情報発信				
東三河の暮らしやすさを伝えるためのデータの整理	県			→
暮らしやすさを伝えるための広報媒体の作成	県・市町村			→
首都圏等において東三河の暮らしやすさを発信	県			→

- ※1 首都圏に在住の東三河地域出身者やゆかりの人たちで構成される倶楽部。東三河の市町村が首都圏で行うプロモーション活動等への参加や、SNSによる情報発信などの活動を実施。
- ※2 従来型のアンテナショップではなく、東三河の上質な食材をはじめ、歴史・文化、豊かな自然環境など東三河という上質な地域をブランド化して情報発信し、東三河のブランドイメージを向上させ、東三河ファンの増加を図ることを目的に、東三河広域連合が開設に向け検討。
- ※3 愛知工科大学/愛知工科大学自動車短期大学が、蒲郡市、幸田町の自治体と、蒲郡、蒲郡東、三谷水産、幸田の4高校、蒲郡商工会議所、蒲郡鉄工会、幸田商工会で構成されるコンソーシアムを平成26年6月に発足。誰もが住みたくなり天寿を全うしたくなる、活力ある郷土であり続けられるよう、三河の雇用と富を生み出す製造業を核とする企業の持続的成長に必須となる人材の育成を、地域の高校、大学、産業界および自治体が連携して地域総掛かりで行うことを目的に活動。

V 推進体制等について

1 推進体制

工程表に明記した各主体がそれぞれの取組を着実に推進していく。

2 推進プランの進捗状況の把握及び見直しについて

県、市町村、及び東三河広域連合が関係団体と連携・協力しながら、毎年度、推進プランに基づいて実施する取組の進捗状況の把握及び評価を実施し、東三河ビジョン協議会へ報告していく。

東三河ビジョン協議会においては、社会・経済環境の変化を踏まえて随時ローリングを行うなど、推進プランを柔軟に見直していく。

【推進イメージ】



VI 平成 29 年度先導事業

1 東三河魅力発信事業（愛知県事業）

東三河は、豊かな自然や歴史、文化に恵まれると同時に、産業基盤も充実した暮らしやすい地域であるものの、この「東三河の暮らしやすさ」が十分に認知されていないことから、「東三河の暮らしやすさ」を地域内外に発信し、東三河への交流・定住を促進することを目的に「東三河魅力発信事業」を実施した。

【事業内容】

「東三河の素材探し隊！撮って！知って！穂の国キャンペーン」

- ・東三河の風景や街並み、祭りやスポーツなどの写真をSNS（ツイッター又はインスタグラム）上に投稿していただき、SNSの拡散力を活かし、東三河の魅力を地域内外の多くの人に発信した。

【実績（平成 30 年 2 月 28 日現在）】

- ・公式アカウント [higasoza] フォロワー数：2,278 人
- ・ハッシュタグ [#ヒガソザ] 投稿数：801 件



(投稿写真)

2 奥三河魅力発見プログラム（愛知県事業）

奥三河地域（新城市、設楽町、東栄町、豊根村）は、若者が進学や就職を機に都市部へ転出するなど、県内で先行して人口減少が進んでいる。そこで、地元を離れる前に地域の良さを改めて知ることにより将来のUターンに結び付けるバスツアー「奥三河魅力発見プログラム」を実施した。

【事業内容】

- ・奥三河地域在住、在学の中学生及び高校生を対象に、奥三河で活躍している人・企業や史跡を巡る日帰りバスツアーを実施した。

【実施状況】

① 新城・豊根コース

- ・日 時：平成 30 年 1 月 28 日（日）
- ・参加者数：27 名（中学生 21 名、高校生 6 名）
- ・内 容：豊根村「ロイヤルフィッシュ」の取組といけす見学
五平餅作り体験（大入の郷）
奥三河地域を元気にする活動を行っている安形氏が取組内容を紹介
本多プラス株式会社 大宮工場見学



② 新城・東栄コース

- ・日 時：平成 30 年 2 月 3 日（土）
- ・参加者数：18 名（中学生 15 名、高校生 3 名）
- ・内 容：三信鉱工株式会社見学
バスボム作り体験、太鼓たたき体験、ピザづくり体験（のき山学校）
湯谷温泉で新たな取組を行っている加藤氏が活動内容を紹介
（カフェ&ゲストハウス Hoo! Hoo!）

③ 新城・設楽コース

- ・日 時：平成 30 年 3 月 3 日（土）
- ・参加者数：31 名（中学生 19 名、高校生 12 名）
- ・内 容：木のキーホルダーづくり
（ばんじゃーる駒ヶ原）
段戸山高原牛の見学（たけうち牧場）
田峯城見学、設楽原歴史資料館見学



3 小中高特連携事業（愛知県事業）

地域が一体となって連携教育を充実・発展させることによって、魅力ある学校づくり・教育を実践し、東三河地域での若年層の定着を図ることを目的に、「小中高特連携事業」を実施した。

【事業内容】

(1) 東三河小中高特連携教育推進協議会の開催

- ・東三河管内 8 市町村教育長、教育委員の代表、東三河地区高等学校及び特別支援の代表校長、三河地区小中学校長会の代表校長を構成員とした会議を年 2 回開催した。

(2) 連携教育における課題の解決に向けた研究

① キャリアフレッシュセミナーの開催

- ・中学 1 年生に、東三河の高校の学科紹介と高校生との語り合いを行った。
日 時：平成 29 年 10 月 28 日（土）
会 場：ライフポート豊橋
参加者数：中学生 370 名、高校生 39 名、その他 60 名 計 469 名
参加高校：豊橋南、福江、渥美農業、田口〔林業〕、豊橋工業、豊橋商業、三谷水産、
豊丘〔生活文化〕、御津〔国際教養〕、宝陵〔衛生看護・福祉〕 計 10 校

② 人事交流連絡会

校種間人事交流（小中⇄高校・特別支援学校）をしている教員から、交流の実態や勉強となっている内容を各校種の管理職に話す場を設けた。

- 日 時：（第 1 回）平成 29 年 9 月 12 日（火）
（第 2 回）平成 29 年 11 月 30 日（木）

会 場：ライフポート豊橋

参加者数：（第 1 回）94 名、（第 2 回）92 名

③ 県立実業高校を会場とした初任者研修の開催

小中学校の初任者教員を対象に、広い視野で子どもたちにより適切な進路指導をする力を養うため、県立実業高校での授業・実習などを見学する研修を行った。

- 日 時：平成 29 年 10 月 25 日（水）
会 場：（本所管内）豊川工業高校、（支所管内）田口高校
参加者数：（本所管内）55 名、（支所管内）8 名

4 学生と企業の担当者が気軽に対話できるカフェ形式の交流会開催(東三河広域連合等)

カフェのようなリラックスした雰囲気の中、飲み物を片手に少人数でテーブルを囲み、仕事のことや社会人の気になることなど、学生と企業の担当者が気軽に交流できるカフェ形式の交流会を開催した。

(1) 学生のためのカフェ “交” 流会「まじカフェ」の開催（豊橋市、東三河広域連合）

【会場及び実施期間】

- ・技科大会場（豊橋技術科学大学附属図書館）
平成30年1月29日（月）から2月2日（金）
- ・まちなか会場（タリーズコーヒー豊橋駅前店2階）
平成30年2月8日（木）、15日（木）、19日（月）、20日（火）、22日（木）

【実施状況】

- ・技科大会場（豊橋技術科学大学附属図書館）
参加企業・団体：36社
参加学生：105名
- ・まちなか会場（タリーズコーヒー豊橋駅前店2階）
参加企業・団体：52社
参加学生：86名



(2) 愛知工科大学（“AU” T）の学生と地元企業が出“会う”カフェ「あうカフェ」の開催（蒲郡市、東三河広域連合）

【会場及び実施期間】

- ・愛知工科大学キャンパス（4号館 1階 ラウンジ）
平成30年2月2日（金）、5日（月）、6日（火）

【実施状況】

- 参加企業・団体：9社
- 参加学生：52名



VII 参考資料

1 策定経緯

(1) 平成 29 年度の東三河ビジョン協議会等の開催状況

年 月 日	主な内容
H29. 5. 30	<p>第 1 回 東三河ビジョン協議会 企画委員会（以下「企画委員会」）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度主要プロジェクト推進プラン「『人が輝き活躍する東三河』の実現」、「世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携」の骨子（案）について
H29. 6. 6	<p>第 1 回 ワーキンググループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「『人が輝き活躍する東三河』の実現」の骨子案に対する意見
H29. 6. 26	<p>第 2 回 企画委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 東三河振興ビジョン 平成 28 年度の進捗状況について 東三河振興ビジョン 主要プロジェクト推進プラン 平成 28 年度の成果と主な取組状況 平成 29 年度主要プロジェクト推進プラン（「『人が輝き活躍する東三河』の実現」、「世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携」）の骨子案について
H29. 8. 7	<p>第 1 回 東三河ビジョン協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> 東三河振興ビジョン及び主要プロジェクト推進プラン 平成 28 年度の進捗状況及び主な取組状況について 平成 29 年度主要プロジェクト推進プラン骨子案について テーマ①「人が輝き活躍する東三河」の実現 テーマ② 世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携
H29. 11. 20	<p>第 3 回 企画委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度主要プロジェクト推進プランの中間とりまとめ（案）について
H29. 12. 25	<p>第 2 回 東三河ビジョン協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度主要プロジェクト推進プランの中間とりまとめ（案）について
H30. 1. 25～ 2. 23	<p>パブリックコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 東三河振興ビジョン「主要プロジェクト推進プラン」中間とりまとめに対する意見の募集
H30. 2. 27	<p>第 4 回 企画委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民意見募集の結果について 平成 29 年度主要プロジェクト推進プランの最終とりまとめについて 平成 30 年度主要プロジェクト推進プランのテーマ候補について
H30. 3. 20	<p>第 5 回 企画委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度主要プロジェクト推進プラン（案）について 平成 30 年度主要プロジェクト推進プランのテーマ（案）について
H30. 3. 29	<p>第 3 回 東三河ビジョン協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度主要プロジェクト推進プラン（案）について 平成 30 年度主要プロジェクト推進プランのテーマ（案）について

(2) パブリックコメント

推進プランの中間とりまとめに対する意見の募集(パブリックコメント)を実施

募集期間	平成 30 年 1 月 25 日から平成 30 年 2 月 23 日まで
意見募集の周知方法	県政記者クラブ・豊橋市政記者クラブへの記者発表 愛知県等のホームページへの掲載 東三河県庁（東三河総局）・東三河 8 市町村・東三河広域連合等での 閲覧
意見募集の結果	意見の提出者数：4 人 意見の件数：12 件

